

住家 第一期每週一時

(右建築沿革ノ次へ増置)

實地測量 第一期同 四時

(右圖式力學ノ次へ増置)

製圖及配景圖 第一期同 六時

意匠及製圖 第二期同十三時半

第三期同十六時半

寫圖及配景圖 第一期每週十時

意匠及製圖 第一期同二十五時

第三期同二十時

○ 第二年

○ 現 今

寫築物理法及 第一期每週一時半

仕様及計算 第三期同 三時

意匠及製圖 第一期同十八時

第二期同十八時

○ 第三年

○ 現 今

施工法 第二期每週一時

(施工法ハ移シテ第二年ニ在リ)

改正

改正

刪除

施工法 第二期同每週一時半

意匠及製圖 第一期同十三時半

第二期同十八時

第三期同十七時

美 學 第二期每週二時

意匠及製圖 第二期同 十五時

探鑛及冶金學科

○ 第一年

○ 現 今

冶金學 第三期每週四時

○ 第二年

○ 現 今

撰鑛學 第一期 每週三時

第二期 每週三時

○ 第三年

○ 現 今

鑛脈論 第二期每週三時

明治二十八年改訂(十二月十日)

土木工學科

○ 第一年

第四章 工科大学

美 學 第一期 每週二時

意匠及製圖 第二期同 十六時

改正

冶金學 第二期同每週三時

第三期同每週三時

改正

撰鑛學 一年間每週二時

改正

鑛脈論 第一期 每週二時

第二期

每週二時



第二篇 大學院及分科大學

現 今

物理學 一年間每週二時

實地測量及製圖 (第一期同每週二十七時  
第二期同 二十三時  
第三期同 二十時)

第二年

現 今

刪除

實地測量及製圖 (第一期同每週二十六時  
第二期同 廿五時  
第三期同 二十時)

改正

○

土木行政法 第三期每週二時

(右工藝經濟學ノ次へ増置)

意匠及製圖 (第一期、二期每週廿七時  
第三期同 廿一時)

意匠及製圖 (第一期、二期每週十九時  
第三期同 十七時)

第三年

現 今

改正

土木行政法 第二期每週二時

(土木行政法ハ移シテ第二年ニ在リ)

意匠及製圖 第二期每週二十六時

意匠及製圖 第二期每週二十八時

機械工學科

第一年

現 今

物理學 一年間每週二時

意匠製圖及實驗 (第一期同 廿四時  
第二期同 廿四時  
第三期同 廿四時)

造船學科

第一年

現 今

改正

刪除

意匠製圖及實驗 (第一期每週二十六時  
第二期同 二十六時  
第三期同 二十六時)

改正

刪除

造船意匠及製圖 (第一期每週十八時  
第二期同 十八時  
第三期同 十八時)

造船學科

第一年

現 今

物理學 一年間每週二時

火藥學 第一期同 二時

砲內彈道學 第一期同 二時

火兵論及火兵製造 一年間同 四時

改正

刪除

火藥學 一年間每週二時

火兵論及火兵製造 (第一期同 三時  
第二期同 三時  
第三期同 三時)

第四章 工科大學



製圖

〔第一期同每週十五時  
第二期同 十時〕

第二年

現 今

砲外彈道學

〔第一期 每週三時  
第二期 二時〕

火工學

第一期同 二時

彈丸論

第二期同 二時

砲架構造及  
砲架抗力論

第三期同 二時

○

發電機及電動機

〔第一期同 二時  
第二期同 二時〕

(右砲架抗力ノ次ニ増置)

砲架及彈丸構造

第三期同 二時

家屋構造

〔第一期同 二時  
第二期同 二時〕

刪除

(砲架ハ移シテ第一年ニアリ  
彈丸構造ハ彈丸論ニ合併)

砲架及車軸

(右火兵論及火兵製造ノ次ニ増置)

製圖

〔第一期同 十五時  
第二期同 十五時〕

改 正

砲外彈道學

第一期每週三時

火工學

第二期同 二時

彈丸論

第三期同 二時

砲架抗力

第三期同 二時

水力機

第三期每週二時

意匠及製圖

〔第一期同 十六時  
第二期同 十六時〕

第三年

現 今

水力機

〔第一期每週一時  
第二期同 一時〕

意匠及製圖

〔第一期同 十六時  
第二期同 十六時〕

改 正

火兵効力論

第二期每週三時

爆裂藥

第二期同 二時

意匠及製圖

第二期同廿七時

電氣工學科

第一年

現 今

物理學

一年間每週二時

電氣及磁氣實驗 〔第一期同 十八時  
第二期同 十八時〕

造家學科

刪除

電氣及磁氣實驗 〔第一期同 二十二時  
第二期同 二十二時〕

改 正



第二篇 大學院及分科大學

一六〇

第一年

現 今

物理學 一年間每週二時

刪除 改正

蒸氣機關 一年間同 二時

刪除 一年間每週一時

意匠及製圖 (第二期同 十三時半  
第三期同 十六時半)

意匠及製圖 (第二期同 二十五時  
第三期同 二十五時)

應用化學科

第一年

現 今

物理學 一年間每週二時

刪除 改正

火藥學科

第一年

現 今

物理學 一年間每週二時

刪除 改正

材料及構造強弱學 (第一期同 三時  
第二期同 三時)

刪除

改正

改正

改正

改正

改正

改正

改正

改正

改正

改正

改正

改正

改正

改正

改正

改正

改正

改正

改正

改正

改正

改正

改正

改正

改正

改正

改正

改正

改正

改正

改正

改正

改正

改正

改正

改正

改正

改正

改正

改正

改正

改正

改正

火兵論 第一期每週二時

砲內彈道學 第一期同 二時

有機化學 一年間同 三時

化學實驗 一年間同 十時

製圖 (第一期同 三時  
第二期同 七時  
第三期同 七時)

砲外彈道學 (第一期每週三時  
第二期同 二時)

彈丸論 第二期同 二時

火工學 第一期同 二時

家屋構造 (第一期每週二時  
第二期同 二時)

現 今

現 今

現 今

現 今

現 今

現 今

現 今

現 今

現 今

現 今

現 今

現 今

現 今

現 今

現 今

現 今

現 今

現 今

現 今

現 今

現 今

現 今

現 今

現 今

現 今

現 今

現 今

現 今

現 今

現 今

現 今

火兵論及火兵製造 (第一期每週三時  
第二期同 二時)

砲內彈道學 (第一期同 二時  
第二期同 三時)

有機化學 (第一期同 四時  
第二期同 三時)

化學實驗 一年間同 十二時

製圖 (第一期同 六時  
第二期同 八時  
第三期同 十二時)

砲外彈道學 第一期每週三時

彈丸論 第三期同 二時

火工學 第二期同 二時

發電機及電動機 (第一期同 二時  
第二期同 二時)

家屋構造 (第一期每週二時  
第二期同 二時)

現 今

現 今

現 今

現 今

現 今

現 今

現 今

現 今

現 今

現 今

現 今

現 今

現 今

現 今

現 今

現 今

現 今

現 今

現 今

現 今

現 今

現 今

現 今

現 今

現 今

現 今

現 今

現 今

現 今

現 今

一二六一



第二篇 大學院及分科大學

一二六二

化學實驗  
〔第一、二期 每週十七時  
第三、四期 同 十七時  
第五、六期 同 十五時〕

水力機  
〔第一期 每週週時  
第二期 同 增置〕  
〔第一、二期 同 廿八時  
第三、四期 同 廿八時  
第五、六期 同 八時〕

現 今

現 今

改正

爆裂藥  
第二期每週二時  
特別講義  
第二期同 二時

〔爆裂藥ハ第一年課程  
中ノ火藥學ニ合併〕  
特別講義  
第二期每週四時  
化學史  
第三期同 二時  
〔右特別講義ノ次へ増置〕

採鑛及冶金學科

第二年

現 今

改正

地下測量  
〔第一期 每週二時  
第二期 同 每週二時〕

鑛山測量  
〔第一期 每週二時  
第二期 同 每週二時〕

第三年

現 今

改正

鑛脈論  
〔第一期 每週三時  
第二期 同 每週三時〕

鑛床學  
〔第一期 每週二時  
第二期 同 每週二時〕

第三節 講座

明治二十六年九月勅令第九十三號を以て、帝國大學に講座を設置せられたることは、本卷第一篇第四章に述べたる如くなるが、今其中工科大學に屬する講座を擧ぐれば左の如し。

- 土木工學 四講座
- 機械工學 二講座
- 造船學 二講座
- 造兵學 一講座
- 電氣工學 二講座
- 造家學 三講座
- 應用化學 二講座

第四章 工科大學

一二六三



火藥學  
採鑛學 冶金學  
材料及構造強弱學

一講座  
三講座  
一講座  
計 二十一講座

明治二十九年五月五日勅令第百七十六號を以て、機械工學「二講座」を「三講座」に、應用化學「二講座」を「三講座」に、採鑛學 冶金學「三講座」を「四講座」に改められたり。増設の理由は本卷第一篇第四章に擧げたるが如し。

第四節 教職員異動

工科大学は元東京大學工藝學部と舊工部大學校とを合併して成れるものなれば、教員の如きも亦元東京大學工藝學部教員と舊工部大學校教員とを併せて任用したるものなり。今開設當初にの教職員組織を見るに、學長は教授古市公威之に任じ、教授志田林三郎教頭心得に任せられたり。其の他教授及教師等左の如し。

鑛山學

教授及教師

ジョン・ミルン

應用化學  
機械工學  
電氣工學  
應用化學  
同  
冶金學  
鑛山學  
造船學  
造家學  
應用化學  
機械工學  
土木工學  
機械工學  
電氣工學

助教授

松井直吉  
チャレリス・デキンソン・ウエスト  
志田林三郎  
高松豊吉  
ゴツドフ・レートウ・グネル  
巖谷立太郎  
渡邊渡  
三好晋六郎  
辰野金吾  
平賀義美  
山田要吉  
古市公威  
谷口直貞  
藤岡市助



應用化學

中村 貞吉

同

河喜多能達

電氣工學

中野 初子

鑛山學

的 場 中

冶金學

山田 直矢

機械工學

井口 在屋

講師

造家學

シヨサイア・コンドル

明治二十年二月二十五日理學士白石直治教授に任じ土木工學授業を擔任し、三月三日海軍少技監櫻井省三工科大学教授兼任を命せられ、理學士中澤岩太教授に任じ應用化學授業を擔任す。四月二十二日教授松井直吉第三高等中學校教諭兼第三高等中學校教頭に轉任す。五月五日教授志田林三郎願に依り帝國大學評議員及工科大学教頭心得を免せらる。八月十一日參謀本部陸軍部第一局課員兼陸軍大學校教授陸軍砲兵大尉天野富太郎教授に任せられ、造兵學及火藥學授業を擔

任す。九月二十八日海軍少技監若山鉦吉教授兼任を命せられ造船學授業を擔任す。同日海軍少技監兼教授櫻井省三願に依り兼官を免せらる。三月十七日助教中村貞吉、五月二十五日助教山田直矢何れも願に依り本官を免せられ、工學士志筑岩一郎助教に任せられ應用化學授業を擔任す。同月二十七日遞信三等技手工學士山川義太郎助教に任せられ、電氣工學授業を擔任す。五月三十一日非職助教中島銳治復職を命せらる。六月二十二日印刷局一等技手理學士坂田貞一助教に任せらる。

是の年六月二十六日英國人ウキリアム・キンニンモンド・バルトンを聘し、衛生工學授業を擔任せしめたり。

明治二十一年十一月二十七日を以て、工科大学長教授古市公威願に依り工科大学長を免せられ、同二十八日帝國大學總長渡邊洪基當分工科大学長事務取扱を命せらる。二月二十二日海軍少技監宮原二郎教授に兼任し造船學授業を擔任す。十月六日第一高等中學校教諭小島憲之工科大学教授に兼任し造家學授業を擔任す。二月七日海軍五等技手松尾鶴太郎に本學年中造船學科授業を囑託し、尋いで



五月三日助教兼任を命せらる。四月十七日助教山口準之助願に依り本官を免せらる。五月十九日工學士小川梅三郎、曾山幸彦何れも助教に任じ、小川助教は土木工學を、曾山助教は造家學を擔任す。七月三日助教中野初子、十月十三日助教二見鏡三郎何れも願に依り本官を免せらる。二月十九日東京府五等技師倉田吉嗣に土木工學講師を、十月九日學習院教授嵯峨根不二郎に工業經濟學講師を、同十五日宮内省内匠四等技師片山東熊に造家學圖畫講師をそれぞれ囑託せり。

是の年九月十日佛國人アウギュスト・サラベルを聘し造家學教師を囑託せしが、十月六日依願解職となれり。

明治二十二年十月十一日教授古市公威再び工科大學長となり、渡邊洪基工科大學長事務取扱を免せらる。七月五日參謀本部第一局員兼陸軍大學校兵學教官工科大學教授陸軍砲兵大尉天野富太郎の教授兼官を解く。十月十五日工學士眞野文二教授に任じ機械工學授業を擔任す。十一月七日砲兵會議事務官陸軍砲兵大尉鶴田政德教授兼任を命せらる。四月十七日工學士恩田宮五郎助教に任じ、同

二十七日理學士野呂景義助教に任じ、何れも探鑛冶金學授業を擔任す。十一月八日助教授的場中願に依り本官を免す。一月四日農商務四等出仕高山甚太郎に探鑛冶金學授業を、十九日宮内省内匠一等技師木子清敬に造家學科日本建築學授業を、又十二月六日陸地測量師中原貞三郎に土木工學科授業を囑託せり。

明治二十三年二月十八日教授砲兵大尉鶴田政德、三月二十七日農商務二等技師兼教授谷口直貞、何れも教授兼官を免せらる。四月二日陸軍砲兵大尉秋元盛之教授に任じ造兵學授業を擔任す。十月四日教授白石直治依願免官となり、同月二十六日海軍造兵廠製藥科主幹海軍大技師石藤豊太教授兼任となり、火藥學授業を擔任す。同月三十日京都府技師田邊朔郎教授に任じ土木工學授業を擔任す。五月八日助教中島銳治依願免官となり、十一月二十日工學士中山秀三郎助教に任じ土木工學授業を擔任す。

明治二十四年一月二十四日教授巖谷立太郎病死せり。二月二十三日土木監督署四等技師清水清教授に任じ、土木工學授業を擔任す。七月七日助教中村達太郎教授に任せられ、造家學授業を擔任し、九月十日中野初子教授に任せられ、電氣工



學授業を擔任す。十月七日教授若山鉉吉願に依り本官を免せらる。十月二十一日海軍大學校教官兼助教松尾鶴太郎の兼官を免す。十月十六日農商務省鑛山局長和田維四郎に鑛山法律授業を囑託し、十二月三日海軍大技士近藤基樹に造船學科授業を囑託せり。

明治二十五年一月四日教授志田林三郎、同月十一日助教大野義康何れも死去せり。三月二十三日造家學科授業補助囑託石井敬吉助教に任せらる。二月十日陸軍教授松岡壽に造家學科裝飾畫及自在畫授業を、四月十六日工學士曾根達藏に造家學科授業を、九月十四日澤井康に電氣工學授業を、同日法學士井上辰九郎に工業經濟學、土木行政法授業を夫々囑託し、六月二十四日大井才太郎の講師囑託を解けり。

明治二十六年本學に講座を設けらる。工科大學所屬の二十一講座の擔任を命ぜられたるもの左の如し。

土木工學第一講座(分擔) 助教授 小川梅三郎  
同 (分擔) 中山秀三郎

同 第二講座 教授 田邊朔郎  
同 第三講座(分擔) 講師 倉田吉嗣  
同 (分擔)  
同 第四講座 教授 眞野文二  
機械工學第一講座 教授 眞野文二  
同 第二講座

造船學 第一講座 教授 三好晋六郎  
同 第二講座 助教授 寺野精一  
造兵學講座 講師 秋元盛之  
電氣工學第一講座 教授 中野初子  
同 第二講座(分擔) 助教授 山川義太郎  
同 (分擔) 講師 藤岡市助  
造家學 第一講座 助教授 石井敬吉  
同 第二講座 講師 小島憲之  
同 教授 辰野金吾



第三講座(分擔)

同	講師 木下清敬
同	講師 松岡壽
應用化學第一講座(分擔)	教授 高松豊吉
同 第二講座	教授 中澤岩太
火藥學講座	講師 石藤豊太
採鑛冶金學第一講座	講師 的場中
同 第二講座	教授 野呂景義
同 第三講座	講師 山田直矢
材料及構造強弱學講座	教授 田邊朔郎

同年七月十九日教授清水濟病死せり。九月九日造船監督官兼工科大学教授宮原二郎、御料局技師兼御料局理事兼工科大学教授渡邊渡、何れも兼官を免せらる。同日小島憲之、秋元盛之、石藤豊太兼任教授を免せらる。一月十日農商務省鑛山局長和田維四郎、海軍大技士近藤基樹に講師を囑託す。

明治二十七年一月三十一日非職助教授中村達太郎教授に任じ、造家學第一講座

擔任を命せられ、七月二十一日講師的場中教授に任じ、採鑛冶金學第一講座擔任を命せられ、講師山田直矢教授に任じ、採鑛冶金學第三講座擔任を命せらる。一月三十一日助教授石井敬吉造家學第一講座分擔を免せらる。六月二十日助教授士筑岩一郎、七月二日助教授恩田宮五郎、何れも願に依り本官を免せらる。七月五日助手西川虎吉助教授に任じ、應用化學授業を擔任す。七月十四日助教授井口在屋非職を命せらる。九月二十五日助教授河喜多能達應用化學第二講座分擔を命せらる。此の年一月十日を以て、海軍技師近藤基樹に講師を囑託し、造船學第二講座職務分擔を命ず。同月三十一日を以て講師小島憲之の囑託を解く。同日和田維四郎に鑛山法律授業を囑託す。五月十九日講師石藤豊太に火藥學講座職務擔任の外應用化學第二講座職務を分擔せしむ。八月二十二日大塚要に講師を囑託し、應用化學第二講座職務を分擔せしむ。九月十二日農商務省技師工學博士高山甚太郎に講師を囑託し、應用化學第二講座職務を分擔せしむ。同十四日學習院教授三輪桓一郎に講師を囑託し、數學授業を擔任せしむ。十二月二十五日石藤豊太の講師囑託を解く。



明治二十八年七月十三日工學士野邊地久記教授に任せられ、土木工學第一講座擔任を命せらる。九月十二日教授中澤岩太應用化學第二講座擔任を命せらる。二月一日助教石井敬吉造家學第三講座擔任を命せられ、七月十三日助教小川梅三郎、同中山秀三郎土木工學第一講座擔任を免せらる。八月六日講師大塚要助教授に任じ、機械工學授業擔任を命せらる。九月二十一日助手江守襄吉郎助教に任じ、應用化學授業擔任を命せらる。十二月二十六日助教中山秀三郎土木工學第二講座擔任を命せらる。二月四日陸軍技師森省吾に講師を囑託し、火藥學講座職務分擔を命ず。三月七日陸軍砲兵少佐本庄道三に講師を囑託し、造兵學講座職務分擔を命ず。九月九日東京衛生試驗所技師堀鉞之亟に講師を囑託し、有機化學化學史授業を囑託す。同月十九日陸軍砲兵少佐島川文八郎に講師を囑託し、火藥學講座職務分擔を命ず。

明治二十九年三月十三日教授野呂景義非職を命せられ、四月三十日教授的場中山田直矢採鑛學冶金學第二講座分擔を命せらる。七月一日御料局技師兼御料局理事工學博士渡邊渡教授に任じ、採鑛學冶金學第四講座分擔を命せらる。九月二

十四日非職助教井口在屋教授に任じ、材料及構造強弱學講座機械工學第三講座擔任を命せられ、理學士中島銳治教授に任じ、土木工學第四講座擔任を命せらる。三月十二日助教山川義太郎休職を命せられ、十三日渡邊庚午郎助教に任じ、土木工學授業擔任を命せらる。七月十一日助教小川梅三郎、三十一日助教西川虎吉、何れも非職を命せらる。八月二十五日工學士斯波忠三郎助教に任じ、機械工學第三講座分擔を命せられ、九月十五日東京府技師服部鹿次郎助教に任じ、土木工學授業擔任を命せらる。同月二十四日鴨居武助教に任じ、應用化學授業擔任を命せられ、二十八日工學士横堀治三郎助教に任じ、採鑛學冶金學第二講座分擔を命せらる。十二月十五日助教中山秀三郎非職を命せらる。此の年二月四日を以て、和田維四郎に鑛山法律授業を、三十一日法學士山崎覺次郎に工藝經濟學授業をそれぞれ囑託せり。四月八日淺野應輔に講師を囑託し、電氣工學第三講座職務分擔をそれぞれ命ず。四月十七日講師近藤基樹、七月二十五日同本庄道三の囑託を解けり。四月三十日工學士松尾鶴太郎に講師を囑託し、造船學第二講座職務分擔を命ず。同日東京工業學校教授坂田貞一に本年七月まで講師を囑託し、採



鑛學冶金學第二講座に屬する職務を分擔せしめたり。九月十八日第一高等學校教授山口銳之助に講師を囑託し、應用工學授業擔任を命ず。二十五日東京府技師原龍太に講師を囑託し、施工法授業を擔任せしむ。十月十日講師倉田吉嗣の土木工學第三講座分擔を解き、更に該講座擔任を命ず。十二月十日陸軍砲兵少佐武田三郎に講師を囑託し、造兵學講座職務分擔を命ず。十二月十四日小島門彌に講師を囑託す。二十五日近藤仙太郎に講師を囑託し、土木工學第二講座職務擔任を命ず。

猶明治二十六年以降同三十年に至る本分科大學各講座擔任者を表示すれば左の如し。明治三十年以後に及ぶものは線を以て示す。

土木工學第一講座

明治二六、九、九(分擔)	明治二八、七、一三	助教授	小川梅三郎
同二六年九、九(分擔)	同 二八、七、一三	助教授	中山秀三郎
同二八、七、一三(擔任)	——	教授	野邊地久記
土木工學第二講座			

土木工學第三講座

助教授 中山秀三郎

明治二六年九、九(分擔)	明治二九、一〇、一〇	教授	田邊 朔郎
同二六、九、二〇(分擔)	同 二九、一〇、一〇	講師	倉田 吉嗣
同二九、一〇、一〇(擔任)	——	講師	倉田 吉嗣

土木工學第四講座

教授 中島 銳治

明治二九、九、二四(擔任)	——	教授	中島 銳治
機械工學第一講座			
明治二六、九、九(擔任)	——	教授	眞野 文二
機械工學第二講座			

造船學第一講座

明治二六、九、九(擔任)

教授 三好晋六郎

造船學第二講座



明治二六、九、九(分擔)

助教授 寺野 精一

同二九、四、三〇(分擔)

講師 松尾鶴太郎

造船學第三講座(明治三十年四月設置)

船用機關學講座(明治三十年四月設置)

造兵學講座

明治二六、九、二〇(擔任)

明治二八、三、七

講師 秋元 盛之

同二八、三、七(分擔)

同 二九、七、二五

講師 本庄 道三

同二八、九、一九(分擔)

講師 秋元 盛之

同二九、八、三一(分擔)

同 二九、一、三一

講師 天野富太郎

電氣工學第一講座

明治二六、九、九(擔任)

教授 中野 初子

雲氣工學第二講座

明治二六、九、九(擔任)

明治二六、九、二二

助教授 山川義太郎

同二六、九、二二(分擔)

助教授 山川義太郎

同二六、九、二二(分擔)

講師 藤岡 市助

同二九、四、八(分擔)

講師 淺野 應輔

造家學第一講座

明治二六、九、二〇(分擔)

明治二七、一、三一

講師 小島 憲之

同二六、一〇、二二(分擔)

同 二七、一、三一

助教授 石井 敬吉

同二七、一、三一(擔任)

教授 中村達太郎

造家學第二講座

明治二六、九、九(擔任)

教授 辰野 金吾

造家學第三講座

明治二六、九、二〇(分擔)

講師 松岡 壽

同二六、九、二〇(分擔)

講師 木子 清敬

同二八、二、二〇(分擔)

助教授 石井 敬吉

應用化學第一講座



二六、九、九(擔任)

教授 高松 豐吉

應用化學第二講座

明治二六、九、九(擔任)	明治二七、三、一二	教授 中澤 岩太
同二七、三、一二(分擔)	同 二八、九、一二	教授 中澤 岩太
同二七、九、一二(分擔)	同 二八、九、一二	講師 高山 甚太郎
同二七、九、一五(分擔)	同 二八、三、一九	助教授 河喜多能達
同二八、四、六(分擔)	同 二八、九、一二	講師 築山 鏘太郎
同二八、四、一一(分擔)	同 二八、九、一二	講師 細木 松之介
同二八、九、一二(擔任)	同 二八、九、一二	教授 中澤 岩太

應用化學第三講座(明治三十九年五月設置)

火藥學講座

明治二六、九、二一(擔任)	明治二七、一二、二五	講師 石藤 豐太
同二八、二、一四(分擔)	——	講師 森 省吉

明治二八、九、一九(分擔)

講師 島川 文八郎

探鑛學治金學第一講座

明治二六、一〇、三一(擔任)	明治二九、四、三〇	講師 的場 中
同二九、四、三〇(擔任)	——	教授 的場 中

探鑛學治金學第二講座

明治二六、九、九(擔任)	明治二九、三、二五	教授 野呂 景義
同二九、四、三〇(分擔)	同 二九、七、一〇	講師 阪田 貞一
同二九、四、三〇(分擔)	同 三〇、一、二三	教授 的場 中
同二九、四、三〇(分擔)	同 三〇、一、二三	教授 山田 直矢
同二九、九、二八(分擔)	同 三〇、一、二六	助教授 橫堀 治三郎
同三〇、一、二三(分擔)	——	講師 今泉 嘉一郎

探鑛學治金學第三講座

明治二六、一〇、三一(擔任)	明治二九、四、三〇	講師 山田 直矢
同二九、四、三〇(擔任)	同 三〇、一、二四	教授 山田 直矢



明治三〇、二、一六(兼擔) 明治三〇、四、一四

講師 渡邊 渡

同三〇、四、一四(兼擔)

教授 渡邊 渡

探鑛學治金學第四講座(明治二九年五月設置)

明治二九、七、二(分擔) 明治三〇、一、一二

教授 渡邊 渡

同三〇、一、一三(擔任)

講師 渡邊 渡

同三〇、四、一四(擔任)

教授 渡邊 渡

材料及構造強弱學講座

明治二六、九、九(擔任) 明治二九、七、二四

教授 田邊 朝郎

同二九、九、二四(擔任)

教授 井口 在屋

### 第五章 文科大學

文科大學は舊東京大學文學部の事業を繼承し、帝國大學の一分科大學を成すも

のなるが、帝國大學設立當時の舊東京大學文學部は前年十二月の改正に依り、其の學科の一たりし政治學科を法學部に移し、該學部を法政學部と改めたる後なれば、哲學科、和文學科及漢文學科の三學科を有するに過ぎず。帝國大學分科大學は之を繼承し、更に博言學科を加へて四學科と爲したり。其の後漸次學科の増設せらるゝありて規模漸く大となれり。今他の分科大學の例に倣へば、最初に規則の廢に就き記述すべき筈なるも、此の期間文科大學に於ては之に該當するものなければ、直ちに學科編成の改正、講座及教職員異動に就き順次記述すべし。

#### 第一節 學科編成

前に既に説明せる如く、文科大學開設當時に於ては舊東京大學文學部の事業を繼承して、哲學科、和文學科及漢文學科の三學科を有したる外に、新に博言學科を加へ四學科を以て組織せられたり。今開設當時の學科課程を録すること左の如し。

#### 學科課程

本學ニ左ノ四學科ヲ設ケ修業ノ年限ヲ各三ケ年トス

#### 第一 哲學科

#### 第五章 文科大學



第二 和文學科

第三 漢文學科

第四 博言學科

哲學科 × 印ノ四課目中二課目ヲ撰修セシム

第一年

論理學	一年間	每週二時	作文
心理學	同	同 三時	獨語
哲學	同	同 三時	哲學
東洋哲學	同	同 四時	生理學
史學	同	同 三時	社會學
地質學 ×	同	同 三時	東洋哲學
動物學 ×	同	同 三時	地質學 ×
和文學 ×	同	同 二時	動物學 ×
漢文學 ×	同	同 四時	和文學 ×
英語	同	同 三時	漢文學 ×

第二年

獨語	同	同 三時
作文	同	同 三時
哲學	一年間	每週三時
生理學	同	同 三時
社會學	同	同 三時
東洋哲學	同	同 四時
地質學 ×	同	同 三時
動物學 ×	同	同 三時
和文學 ×	同	同 二時
漢文學 ×	同	同 四時

英語

獨語

作文

第三年

心理學	一年間	每週三時	英語
哲學	同	同 三時	作文
審美學	同	同 三時	和文學
東洋哲學	同	同 四時	支那歷史

和文學科

第一年

論理學	一年間	每週二時	日本歷史
心理學	同	同 三時	和漢古代法制
哲學	同	同 三時	支那歷史
東洋哲學	同	同 一時	和文學
史學	同	同 三時	英語

第二年

日本歷史	一年間	每週四時
和漢古代法制	同	同 四時
支那歷史	同	同 一時
和文學	同	同 五時
英語	同	同 三時
社會學	一年間	每週三時
東洋哲學	同	同 四時
日本歷史	同	同 三時
和漢古代法制	同	同 五時
支那歷史	同	同 一時
和文學	同	同 五時
英語	同	同 二時

第五章 文科大學



第二篇 大學院及分科大學

一二八六

作文

第三年

史學

一年間 每週三時

支那經學

同 同 三時

哲學

一年間 每週三時

和漢古代法制

同 同 二時

東洋哲學

同 同 四時

日本歷史

同 同 二時

漢文學

同 同 四時

和漢古代法制

同 同 五時

和文學

同 同 四時

支那歷史

同 同 一時

英語

同 同 一時

和文學

同 同 四時

作文

同 同 三時

作文

同 同 四時

漢文學科

第二年

第一年

哲學

一年間 每週三時

社會學

同 同 三時

論理學

一年間 每週二時

東洋哲學

同 同 四時

心理學

同 同 三時

支那經學

同 同 三時

哲學

同 同 三時

支那歷史

同 同 四時

東洋哲學

同 同 一時

日本歷史

同 同 一時

和漢古代法制

一年間 每週四時

ヲ撰修セシム

第一年

一年間 每週二時

漢文學

同 同 四時

論理學

同 同 三時

和文學

同 同 一時

史學

同 同 一時

英語

同 同 二時

博言學

同 同 一時

作文

同 同 二時

漢文學

同 同 四時

哲學

一年間 每週三時

和文學

同 同 四時

東洋哲學

同 同 四時

英語

同 同 六時

支那經學

同 同 三時

獨語

同 同 六時

支那歷史

同 同 四時

羅旬語

同 同 六時

和漢古代法制

同 同 四時

作文

同 同 三時

日本歷史

同 同 三時

第二年

漢文學

同 同 一時

博言學

一年間 每週一時

作文

同 同 四時

漢文學

同 同 四時

和文學

同 同 四時

和文學

同 同 四時

第五卷 文科大學

一二八七

博言學科 ※印ノ四課目中一課目



第二篇 大學院及分科大學

二二八八

英語	一年間	每週五時	和文學	一年間	每週四時
獨語	同	同 五時	英語	同	同 四時
羅甸語	同	同 三時	獨語	同	同 四時
朝鮮語※	同	同 三時	羅甸語	同	同 三時
アイノ語※	同	同 三時	朝鮮語※	同	同 三時
梵語※	同	同 三時	支那語(俗語)	同	同 三時
佛語※	同	同 三時	アイノ語※	同	同 三時
作文	同	同 三時	梵語※	同	同 三時
			佛語※	同	同 三時
博言學	一年間	每週一時	作文	同	同 三時
漢文學	同	同 三時			

明治二十年九月九日に至り、史學科、英文學科及獨逸文學科の三學科を増設し、且既設學科全般に涉り改正を加ふる所あり。史學科の設けられたるは、是れより先招聘せる史學教師獨逸人ルドウイツヒリースの着任せるに因るなり。學科の順

序は(第一)哲學科(第二)和文學科(第三)漢文學科(第四)史學科(第五)博言學科(第六)英文學科(第七)獨逸文學科とせられたり。右七學科の學科課程左の如し。

哲學史及論理學	第一學科	第一期	每週三時	獨逸語	一年間	每週三時
史學	第一學科	第二期	同 五時	羅甸語	同	同 四時
英語	第一學科	第三期	同 三時	社會學	同	同 三時
獨逸語	第一學科	一年間	同 三時	東洋哲學	同	同 三時
羅甸語	第一學科	同	同 三時	生理學	同	同 三時
和文學	第二學科	第一期	同 一時	倫理學	同	同 三時
漢文學	第二學科	第二期	同 三時	審美學	同	同 二時
理學(動物學若地質學)	第二學科	第三期	同 三時	教育學	同	同 二時
哲學史及心理學	第二學科	一年間	每週三時	獨逸語	同	同 三時
史學	第二學科	同	同 三時	羅甸語	同	同 四時
英語	第二學科	同	同 三時	心理學講義及演習	同	同 二時
英語	第二學科	同	同 二時	東洋哲學	同	同 四時

第五章 文科大學

一二八九



精神病論 一年間 每週二時  
 哲學演習 第一期 同 二時  
 第二期 同 三時  
 第三期 同 三時

和文學科

第一年

哲學史及論理學 第一期 每週三時  
 第二期 同 五時  
 第三期 同 三時  
 史學 一年間 同 三時

第三年

東洋哲學 一年間 每週三時  
 日本歷史 同 同 三時  
 日本支那古代法律 同 同 五時  
 和文學 同 同 四時  
 支那歷史 同 同 一時

英語若クハ獨逸語 同 同 三時

日本歷史 同 同 四時

日本支那古代法律 同 同 四時

和文學日本文典一時 同 同 五時

支那歷史 同 同 一時

第二年

哲學史及心理學 一年間 每週三時

史學 同 同 三時

英語若クハ獨逸語 同 同 三時

倫理學 第一期 每週三時  
 審美學 一年間 同 二時  
 教育學 同 同 二時  
 英語若クハ獨逸語 同 同 三時  
 東洋哲學 同 同 四時  
 社會學 同 同 三時  
 日本歷史 同 同 二時  
 日本支那古代法律 同 同 三時  
 和文學 同 同 三時

支那歷史 一年間 每週一時

漢文學科

第一年

哲學史及論理學 第一期 每週三時  
 第二期 同 五時  
 第三期 同 三時  
 史學 一年間 同 三時

英語若クハ獨逸語 同 同 三時

日本支那古代法律 同 同 四時

和文學 同 同 一時

支那歷史 同 同 二時

支那古文學 同 同 三時

漢文學 同 同 四時

第二年

哲學史及心理學 一年間 每週三時

史學 同 同 三時

英語若クハ獨逸語 同 同 三時

第五章 文科大學

東洋哲學 一年間 每週三時

日本支那古代法律 同 同 四時

日本歷史 同 同 一時

和文學 同 同 一時

支那歷史 同 同 三時

支那古文學 同 同 三時

漢文學 同 同 二時

第三年

倫理學 第一期 每週三時

審美學 一年間 同 二時

教育學 同 同 二時

東洋哲學 同 同 四時

社會學 同 同 三時

日本歷史 同 同 一時

日本支那古代法律 同 同 二時



第二篇 大學院及分科大學

二九二

支那歷史	一年間	每週三時	社會學	一年間	每週三時
支那古文學	同	同三時	史學及地理學	同	同九時
漢文學	同	同二時	倫理學	第三年	
史學科			審美學	第一期	每週三時
哲學史及論理學	第一年	每週三時	獨逸語	一年間	同二時
英語	第一期	同五時	羅旬語	同	同三時
獨逸語	第二期	同三時	教育學	同	同四時
羅旬語	第三期	同三時	史學及地理學	同	同十時
地文學	同	同三時	博言學科		
史學及地理學	同	同八時	哲學史及論理學	第一期	每週三時
哲學史及心理學	第二年		史學	第一期	同五時
獨逸語	一年間	每週三時	英語	第二期	同三時
羅旬語	同	同三時	獨逸語	第三期	同三時
東洋哲學	同	同四時	羅旬語	一年間	同三時

和文學日本文典	一年間	每週五時	英語	第三年	
漢文學	同	同四時	獨逸語	一年間	每週三時
哲學史及心理學	第二年		羅旬語	同	同四時
史學	一年間	每週三時	教育學	同	同二時
英語	同	同三時	和文學	同	同四時
獨逸語	同	同三時	漢文學	同	同三時
羅旬語	同	同四時	比較博言學	同	同一時
佛蘭西語	同	同四時	支那語(俗語)	同	同三時
和文學	同	同四時	佛蘭西語X	同	同二時
漢文學	同	同四時	朝鮮語X	同	同二時
比較博言學	同	同二時	梵語X	同	同二時
朝鮮語X	同	同二時	X印ノ三課目中一課目ヲ撰修セシム		
梵語X	同	同二時	英文學科		
X印ノ二課目中一課目ヲ撰修セシム			第一年		



第二篇 大學院及分科大學

哲學史及論理學	第一期	每週三時	倫理學	第一期	每週三時
史學	第一期	同	審美學	一年間	同
獨逸語	同	同	獨逸語	同	同
羅甸語	同	同	羅甸語	同	同
佛蘭西語	同	同	教育學	同	同
英語	同	同	英語	同	同
哲學史及心理學	一年間	每週三時	獨逸文學科	第一年	每週三時
史學	同	同	哲學史及論理學	第一期	每週三時
獨逸語	同	同	史學	第一期	同
羅甸語	同	同	英語	第一期	同
東洋哲學	同	同	羅甸語	第一期	同
音學作詩	同	同	佛蘭西語	第一期	同
ニツキ語及	同	同	獨逸語	第一期	同
ノス語發達史	同	同		第一期	同
英語	同	同		第一期	同

一二九四

哲學史及心理學	一年間	每週三時	倫理學	第一期	每週三時
史學	同	同	審美學	一年間	同
英語	同	同	英語	同	同
羅甸語	同	同	羅甸語	同	同
東洋哲學	同	同	教育學	同	同
音學作詩	同	同	獨逸語	同	同
ニツキ語及	同	同		同	同
ノス語發達史	同	同		同	同
獨逸語	同	同		同	同

學生中正課外ハ某課目ニ就キ講義演習ヲ請フモノアルトキハ教科ノ都合ニ依リ此輩ノ爲メニ之レガ講義演習ノ課ヲ設クルコトアルベシ

明治二十一年以後に於て各學科に於ける授業科目の改廢屢々行はれたるが、今一々之を記さず。其の中特に注意すべきものみに就きて記述すべし。

明治二十一年六月二十三日史學科授業科目中に日本歴史(一年間每週二時)を加へ、同じく十月九日隨意科として史學講義(每週二時)及伊太利語(每週二時)を加へ、十月十三日哲學科第二年及第三年の課程中に精神物理學(每週三時)を加へたり。伊



太利語の加へられたる事は、當時威仁親王を總裁に奉戴し、辻新次を會長と爲し、日伊の通交を盛んならしめ、且本邦に於ける伊太利語の普及を圖るを以て目的とせる伊學教會より教師を派遣し、學生中の有志者に伊語を教授せんとする計畫に對し、總長に於て同意を表せられたる結果に出づ。精神物理學は當時歐米に於ける新興の學科にして、本學は遇々米國に於て之を修めて歸國せる元良勇次郎に其の講義を委嘱せるなり。是れ後年に於ける實驗、心理學の濫觴なりとす。

前記二十一年度改正に於て史學科授業科目中に日本歴史加へられ、又隨意科として史學講義の設けられたるは、從來内閣修史局に於ける修史事業が二十一年十月三十日を以て本學に移管せられ、文科大學に編年史編纂掛を設けられたるに因る。修史事業の沿革は後に第六卷第七章史料編纂掛の條下に詳にすべければ、今之を略し、單に移管の結果に就いて記さんに、修史局の事業の本學に移管せらるゝや、編輯長重野安釋、編修久米邦武、同星野恒文科大學教授に轉じたるにより、之を機會として文科大學に國史學科を増設せんとし、明治二十一年十月渡邊總長より文部省に左の書面を提出せり。

各國ノ法律制度其他政治經濟ニ屬スル一切ノ事件其國ノ風土人性ヲ明ニシ并其風土人性ノ内ニ於テ發達セシ國民固有ノ經歷ヲ講スルノ止ヲ得サルハ東西古今ヲ問ハス苟クモ經濟ニ志アル者大率ネ唱道スル所ナリト雖モ我帝國大學ノ如キハ東京大學以來本邦ノ地理及歴史ヲ講究スルノ備ナカリシハ實ニ一大缺典ト云フヘシ是蓋本邦ノ如キ古ヘ漢土ノ制度文物ヲ採リ今又西洋ヲ用ユルヨリ常ニ他國ノ史ヲ先ニシテ國史ヲ後ニスルノ風ヲ馴致シタルト昔日政治經濟ノ學タル漢土ハ固ヨリナリ西洋ト雖モ輓近ニ至ルマテ抽象的ノ風ヲ爲シ地理歴史ヲ重ンセサリシモ亦タ其因ナクンハアラサルナリ然ルニ輓近政治法律經濟ノ諸學各國及各地ノ風土人性ニ從ハサルヘカラサルノ要ヲ覺リ時處ノ關係ヲ明ニスルカ爲メニ其地ノ歴史ニ依リテ其根據ト爲スノ調査法盛ニ行ハレ又之ニ因テ歴史ノ講究法ヲ變シ今日ニ在テハ一時又ハ一處ノ社會顯象ヲ目的トシ文書工作其他當時ノ遺存物ヲ蒐集シ之ヲ解剖分析シテ其性質ヲ講明シ書籍館ヲ以テ理學ノ博物實驗場ノ如クニ用ヒ之ヲ研究シ始メテ歴史ヲ理學的ニ講習スルノ方法ヲ按シ遂ニ政治法律經濟上百般ノ學事皆此實驗ニ徴シテ之ヲ是非決斷スルニ至レリ於是大ハ國史小ハ各地方歴史ノ緊要ヲ來セリ本邦現ニ制度文物ヲ改良シ獨立不羈ノ基ヲ建ルニ當リ其基礎ト爲スヘキ國史學科ノ設ケナクシテ可ナランヤ依テ帝國大學分科大學ニ國史ヲ置キ



此道ニ堪能ナル學者ヲ聘シテ以テ學生ヲ教導セシメ此缺典ヲ補ヒ史學中本邦須要ノ事項ニ就テ調査考究セシメ以テ政治經濟ニ於ケル急要ヲ救フ所アラントス但此事現下ノ定額ヲ以テ支辨スヘキニ非ス之ヲ増設スルカ爲メニ別記ノ如キ金額ヲ要スルハ實ニ止ムヲ得サル所ナリ然ルニ維新以來政府ニ修史ノ部局ヲ置カレ國史編纂ニ從事スト雖モ企望スヘキノ結果ヲ見サル者ハ未タ其方法ヲ得サルノ然ラシムル所ナルヘシ其方法ヲ得サルハ史ヲ講スルノ學術ナキニ因ラスンハアラス遂ニ十八年末ノ改革ニ於テ臨時修史局ヲ置キ其事業ヲ繼續シテ元弘建武以來ノ史科ヲ集メ之ヲ編纂スルニ從事スト云フ我帝國大學ニ於テモ上陳ノ如キ急要アルヲ以テ文書及標本ヲ蒐集セサルヲ得スト雖モ目下講究ノ資ニ乏シ又一時此事業ヲ完成スルモ國史研究ノ事業永遠廢スヘキモノニ非ス而シテ彼修史局ニハ本邦稀有ノ史家亦多ク且多年採集セシ所ノ古文書等材料ニ供スヘキモノ極メテ衆シ希クハ此際帝國大學分科大學ニ國史科ヲ新置シ之ニ内閣臨時修史局ノ事業ヲ屬セシメ其終了ノ期マテハ之ニ必要ナル修史局ノ吏員ヲ大學ニ移シ并セテ大學ニ於テ召募セル人員ヲ以テ之ヲ補セ從來修史局存貯ノ圖書ヲ參用シテ其業ヲ卒ヘシメ爾後ハ即チ帝國大學ノ常務トシテ國史科ノ諸學ヲ教授シ且國家須要ノ事項ヲ講究調査セシメハ一ハ從來着手ノ志料ヲ蒐集スルニ史學ニ據ルヲ得ヘク一ハ内閣ト大學ト

二重ノ勞費ヲ省キ一ハ一時ニ史學ノ滅絶スルヲ防禦スルヲ得ルノミナラス永遠ニ帝國大學ニ緊要ノ學科ヲ置キ以テ大ニ政治經濟ノ諸學ヲ實着ナラシムルノ幸ヲ得ン茲ニ臨時事業ノ存在スル間(甲)其後ニ係ル(乙)豫算書二通ヲ進呈シ謹テ裁可ヲ仰ク

明治二十一年十月

帝國大學總長 渡邊 洪基

前記國史學科新設に關しては渡邊總長より、史學教師ルドウィツヒリースの意見を徴したるに左の如き解答あり。國史學科の事業に少なからざる關係を有すると思惟せらるゝを以て、本學重要書類彙集中にある右の譯文を掲載すべし。

本月一日ノ御示命ニ基キ今回大學ニ合併相成候舊修史局ニ連帶シテ設置セラルヘキ國史科ノ課程等ニ關スル意見書差出申候

第一 國史科ノ目的ハ史學ノ學生ニ對シ日本歴史ニ關スル資料及文書ノ印本ト寫本トヲ問ハス苟モ今日ニ現存スルモノニ就キ完全ナル智識ヲ得ルノ法ヲ獎勵指導スルニ在リ修史法ノ練習ハ現今歐洲ニ於テ必要ナリト認定スル所ノ精神ト方法トヲ以テ學生ヲシテ日本歴史ノ攷究ヲ爲サシメンコトヲ企望スルモ新設ノ國史科ニ於テ目下直



ニ之ヲ實施スルコト難シトス故ニ史學ノ基本タル修史學ニ屬スル各學科ヲ勉メテ教授セサルヘカラス

新設國史科ノ實用ハ左ニ記スル如キ職掌ニ適任ナラシメシメカ爲メ學生若干名ヲ教育スルニ在ルヘシ(甲)政府地方官廳貴族大家ノ記録局ニ於テ記録主任又ハ公文ノ整頓保存主任(乙)圖書館長又ハ其掛員(丙)目下日本ニ於テ必要ノ急務タル修史事業ヲ補助セシメ即其資料ヲ蒐集批評及編輯セシムル爲メ編修者又ハ其助手(丁)中學校ノ適格ナル國史教員

第二 修史學ニ屬スル各學科ハ歐洲ニ於テ今之ヲ研修スルアリ或ハ將ニ其研修ヲ爲サントスルノ氣運ニ際スルアリ日本ニ於テモ亦同ク研修ヲ爲スヘキ學科左ノ如シ

(一)チプロマチツクス(古文書學)ハ文書ノ種類ヲ識別シ之ヲ分彙スルノ學科ニシテ其眞成ノ性質ヲ確知センカ爲メ文書ノ外貌及記載ノ事實ヲ批評シ且文書ヲ歴史ノ微證ニ供用スルノ方法ヲ指教ス此學科ニ於テハ文書ヲ轉載編輯若クハ註釋スルノ方法及疑ハシキ筆寫書類ノ年紀ヲ鑑定スル爲メ古文書學實習(バレアグラフィカルエキセルサイス)ヲ併セ授クヘシ

(二)日本ノ史學的地理學ハ日本太古ノ知り得ヘキ疆界及政治上ノ區畫及爾後ノ疆界及

區畫ノ沿革其名稱及普通地理並ニ從前日本ノ所屬タリシ土地ノ區畫名稱等ヲ指教ス(三)日本ノ貨幣學印章學系圖學ハ古來年代ニ從ヒ通用シタル貨幣ノ重量、形容、價值、實質、刻印及文字ノ類、公私ノ文書ニ法律上印判ヲ用フルノ慣習及其印判ノ種類、戰時平時及封建ノ時代ニ於テ用ヒタル紋其他ノ徽章ノ類ヲ攷究シ皇室ノ系譜並ニ歷史上著名ナル大家及華族宗家ノ系譜ヲ詳密ニ調査スヘシ

(四)日本官私修史ノ歴史

(五)日本ケレクンデ<sup>クエレンク</sup>ン<sup>クエレンク</sup>デ<sup>クエレンク</sup>ナ<sup>クエレンク</sup>ラ<sup>クエレンク</sup>ン<sup>クエレンク</sup>ク<sup>クエレンク</sup>即チ歴史資源ノ正否及資源由來ノ判定

第三 講義及實地演習ハ授業上宜ク平衡ヲ得セシムヘシ所屬各學科ハ講義ニ於テ其全體ヲ盡スコト能ハス故ニ其幾分ヲ講授スルニ過キサルベシ其一部分ヲ講授シタルトキハ其細目及之ヲ研究スルノ方法ヲ指明シ學生ヲシテ其目的トスル所ノ點ニ就キ尙ホ攻究ヲ爲スノ途ヲ得セシムベシ

第四 現今ノ史學科ノ學生ハ國史科ノ各講義及演習ニ出席スルノ權ヲ有セシメ且其内ノ或ル學科ハ必ス之ヲ修メシムルノ制ヲ設クヘシ現況ニ於テハ各學科共ニ其基礎ヲ確定セサルヘカラサルカ故ニ史學科及國史科ハ合シテ之ヲ一科ノ如クニ爲サンコトヲ勸告ス即チ國史科ニ入ルハ必ス英語ヲ解スル者ニ限ルヘク且佛語タリトモ歐文ヲ



以テ記シタル所屬學科ノ模範書籍ヲ研究スルコトヲ得ルノ學力アル者ハ亦入學ヲ許スヘシ要スルニ史學科及國史科ノ學生ハ卒業ノ後其望ム所ノ地位ヲ占メ且高等ノ證書ヲ得ヘキ者ニシテ歐洲ノ修史法ヲ日本ノ史料ニ移スニ最適當ノ人ナラサルヘカラス

第五 研究室ヲ編年史編纂掛中ニ設ケ本學ニ於テ蒐集保存スル所ノ資料ハ學生ヲシテ之ヲ參觀スルコトヲ得セシムヘシ故ニ學生ニハ其研究ノ科目ヲ委員長ニ示シ其許可ヲ得テ資料目錄ヲ點檢スルコトヲ得セシムベシ且研究室ニ日本歴史ノ書房ヲ附屬シ學生ノ閱覽ニ便スヘシ

第六 所屬各學科中孰レヲ先キニ講授スヘキカハ新任教授ノ便宜ニ任スヘシ歐洲ニ於テ史學ヲ研究スルノ一例ヲ示サントスルニハプロフエツソル、ヲクリー氏古代愛蘭史ノ寫本材料ニ關スル講義ヲ以テ最適當トス其講義ハ千八百五十五年ダブリンニ於テ初メテ施行シタルモノニシテ千八百五十八年之ヲ印行シテ一書ト爲セリ中本ニテ其紙數四百六十頁ナリ(余其一部ヲ藏ス)此講義ニ類スルモノハ日本ニ於テ最必要ナリト思考ス

千八百八十八年十一月卅日

ドクトルルドウイツヒリース

渡邊總長閣下

再白尙左ニ請求致度一事有之候

蘭國海牙府ノ政府ノ記録局ニ日本歴史ニ關スル數多ノ貴重ナル文書アリ其内平戸及出島蘭國製造場の誤譯ならん(後年ニ至リ出島ニ移ス)ノ日記及往復書副本ヲ以テ最貴重ナリトス此書類ハ千七百年紀及千八百年紀ノ日本史ニ於テ數多ノ事實ヲ明晰ナラシムヘシ海牙日本公使館ノ紹介ヲ以テ其寫一本ヲ得ルコト容易ナルヘシ風評ニ依レハ財政ノ都合ニヨリ同公使館ヲ廢セラルヘシト果シテ然ラハ閣下速ニ其寫本ヲ得ルノ須序ヲ爲サンコトヲ希望ス(公使館ノ書記生ニ托スルトキハ最便利ナルベシ)此一本ハ本學修史掛ノ資料ニ貴重ノ追加ヲ爲スモノナリ

明治二十二年六月二十七日に至リ乃ち文科大學に國史學科の増設を見るに至リ、同時に和文學科を國文學科、漢文學科を漢學科と改稱し、且學科科目の改正を行へり。



第二篇 大學院及分科大學

一三〇四

第一年

哲學史及論理學 第二、三期 每週三時

日本法制沿革 一年間 每週四時

史學 一年間 同 三時

國文學 同 同 四時

英語、佛蘭西語若クハ獨逸語同 同 三時

支那歷史及法制 同 同 二時

日本歷史及地理 同 五時

法制沿革 同 同 二時

日本法制沿革 同 二時

倫理學 第一期 每週三時

國文學 同 一時

審美學 一年間 同 二時

支那歷史及法制 同 三時

教育學 同 同 二時

法制沿革 同 三時

英語、佛蘭西語若クハ獨逸語同 同 三時

第二年

哲學史及心理學 一年間 每週三時

東洋哲學 同 同 四時

史學 同 三時

社會學 同 同 三時

英語、佛蘭西語若クハ獨逸語同 同 三時

日本歷史 同 同 四時

日本歷史及地理 同 五時

日本法制沿革 同 同 四時

支那歷史及法制 同 五時

支那歷史及法制 同 同 一時

國文學科

第一年

哲學史及論理學 第二、三期 每週三時

東洋哲學 一年間 同 三時

史學 一年間 同 三時

日本歷史 同 同 二時

英語、佛蘭西語若クハ獨逸語同 同 三時

日本法制沿革 同 同 二時

日本歷史 同 二時

國文 同 同 四時

日本法制沿革 同 二時

支那歷史 同 同 四時

國語 同 四時

倫理學 同 同 四時

國文 同 四時

審美學 第一期 每週三時

漢文 同 一時

教育學 一年間 同 二時

哲學史及心理學 一年間 每週三時

英語、佛蘭西語若クハ獨逸語同 同 三時

史學 同 三時

東洋哲學 同 同 四時

英語、佛蘭西語若クハ獨逸語同 同 三時

社會學 同 同 三時

第五章 文科大學

一三〇五



第二篇 大學院及分科大學

一三〇六

國文	一年間	每週五時	哲學史及心理學	一年間	每週三時
支那歷史	同	同一時	史學	同	同三時
漢學科			英語、佛蘭西語若クハ獨逸語	同	同三時
第一年			東洋哲學	同	同六時
哲學史及論理學	第一、二期	每週三時	日本法制沿革	同	同一時
史學	一年間	同三時	支那法制沿革	同	同三時
英語、佛蘭西語若クハ獨逸語	同	同三時	日本歷史	同	同一時
日本法制沿革	同	同一時	國文	同	同一時
支那法制沿革	同	同三時	支那歷史	同	同三時
國文	同	同一時	漢文學	同	同二時
支那歷史	同	同三時	第三年		
東洋哲學	同	同三時	倫理學	第一期	每週三時
漢文學	同	同三時	審美學	一年間	同二時
第二年			教育學	同	同七時

東洋哲學	一年間	每週二時	支那法制沿革	一年間	每週二時
社會學	同	同三時	支那歷史	同	同三時
日本歷史	同	同一時	漢文學	同	同二時

明治二十二年十二月、佛蘭西文學科を増設す。其の學科課程左の如し。

佛蘭西文學科

第一年			哲學史及心理學	一年間	每週三時
哲學概論(一期)	第一期	每週三時	史學	同	同三時
及論理學(二期、三期)	第二、三期	每週三時	比較宗教及東洋哲學	同	同二時
史學	一年間	同三時	音樂及ローマンス語	同	同二時
英語	同	同三時	チュートニツキ語歷史	同	同三時
獨逸語	同	同三時	獨逸語	同	同三時
羅甸語	同	同三時	羅甸語	同	同三時
佛蘭西語	同	同七時	佛蘭西語	同	同七時
第二年			第三年		
倫理學	第一、二期	每週三時			

第五章 文科大學

一三〇七



審美學美術史	一年間	同	二時	羅句語	一年間	每週三時
教育學	同	同	二時	佛蘭西語	同	同
獨逸語	同	同	三時		同	九時

明治二十四年及同二十五年に於て夫々授業科目の増減授業科目名稱の改正等ありしが今之を略し、明治二十六年九月二十一日に於ける哲學科、國文學科、漢學科、國史科、史學科、英文學科、獨逸文學科及佛蘭西文學科各學科の科目の全般若くは一部に就き改正を加へられたるものを左に掲載すべし。

哲學科

第一學期	理學(動物學若クハ地質學)	一年間	每週三時
第一學期	羅句語	同	同
第一學期	英語	同	同
第一學期	哲學概論(第一期)	同	同
第一學期	西洋哲學史(第二、三期)	同	同
第一學期	史學	同	同
第一學期	國文學	同	同
第一學期	漢文學	同	同
第二學期	理學(動物學若クハ地質學)	一年間	每週三時
第二學期	羅句語	同	同
第二學期	英語	同	同
第二學期	哲學概論(第二期)	同	同
第二學期	西洋哲學史(第二期)	同	同
第二學期	史學	同	同
第二學期	國文學	同	同
第二學期	漢文學	同	同
第三學期	理學(動物學若クハ地質學)	一年間	每週三時
第三學期	羅句語	同	同
第三學期	英語	同	同
第三學期	哲學概論(第三期)	同	同
第三學期	西洋哲學史(第三期)	同	同
第三學期	史學	同	同
第三學期	國文學	同	同
第三學期	漢文學	同	同

社會學

社會學	一年間	每週三時	國史	一年間	每週二時
比較宗教及東洋哲學	同	二時	法制史	同	同
支那哲學	同	一時	國文學	同	同
印度哲學	同	二時	漢文學	同	同
生理學	同	三時	國語學	同	同
心理學	同	三時	英語○	同	同
倫理學	同	三時	佛蘭西語○	同	同
羅句語(隨意)	同	三時	獨逸語○	同	同
獨逸語	同	三時	○印ノ中ニ課目ヲ撰修スルモノトス	同	同

第三年

第二年

從前之通

心理學

國文學科	第一學期	每週四時	比較宗教及東洋哲學	一年間	同
第一學期	哲學概論	同	比較博言學	同	同
第一學期	史學	同	國史	同	同
第一學期	史學	同	法制史	同	同

第五章 文科大學



第二篇 大學院及分科大學

一三一〇

國文學	一年間	每週四時	國文學	一年間	每週三時
漢文學	同	同一時	支那歷史	同	同一時
支那歷史	同	同一時	國語學	同	同五時
國語學	同	同四時	佛蘭西語○	同	同三時
英語○	同	同三時	獨逸語○	同	同三時
佛蘭西語○	同	同三時	○印ノ中一課目ヲ撰修スルモノトス		
獨逸語○	同	同三時	漢學科		
○印ノ中二課目ヲ撰修スルモノトス			第一年		
第三年			哲學概論(第一期)	第一期	每週四時
美學及美術史	一年間	每週二時	西洋哲學史(第二、三期)	第二、三期	同五時
教育學	同	同二時	史學	一年間	同三時
比較博言學	同	同二時	法制史	同	同一時
比較宗教及東洋哲學	同	同二時	支那法制史	同	同三時
支那哲學	同	同二時	國文學	同	同一時
社會學	同	同三時	支那歷史	同	同三時

支那哲學	一年間	每週三時	國史	一年間	每週一時
支那語(一時)漢文學(二時)同	同	同三時	國文學	同	同一時
英語○	同	同三時	支那歷史	同	同三時
佛蘭西語○	同	同三時	支那語(一時)漢文學(一時)同	同	同二時
獨逸語○	同	同三時	英語○	同	同三時
○印ノ一課目ヲ撰修スルモノトス			佛蘭西語○	同	同三時
第二年			獨逸語○	同	同三時
西洋哲學史	第一期	每週三時	○印ノ中一課目ヲ撰修スルモノトス		
心理學	第二、三期	同三時	第三年		
史學	一年間	同三時	論理學	一年間	每週三時
比較宗教及東洋哲學	同	同二時	美學及美術史	同	同二時
支那哲學	同	同三時	教育學	同	同二時
印度哲學	同	同二時	比較宗教及東洋哲學	同	同二時
法制史	同	同一時	支那哲學	同	同三時
支那法制史	同	同三時	印度哲學	同	同二時

第五章 文科大學

一三一

支那哲學	一年間	每週三時	國史	一年間	每週一時
支那語(一時)漢文學(二時)同	同	同三時	國文學	同	同一時
英語○	同	同三時	支那歷史	同	同三時
佛蘭西語○	同	同三時	支那語(一時)漢文學(一時)同	同	同二時
獨逸語○	同	同三時	英語○	同	同三時
○印ノ一課目ヲ撰修スルモノトス			佛蘭西語○	同	同三時
第二年			獨逸語○	同	同三時
西洋哲學史	第一期	每週三時	○印ノ中一課目ヲ撰修スルモノトス		
心理學	第二、三期	同三時	第三年		
史學	一年間	同三時	論理學	一年間	每週三時
比較宗教及東洋哲學	同	同二時	美學及美術史	同	同二時
支那哲學	同	同三時	教育學	同	同二時
印度哲學	同	同二時	比較宗教及東洋哲學	同	同二時
法制史	同	同一時	支那哲學	同	同三時
支那法制史	同	同三時	印度哲學	同	同二時



第二篇 大學院及分科大學

一三二

社會學	一年間	每週三時	英語○	一年間	每週三時
國史	同	同一時	佛蘭西語○	同	同三時
支那法制史	同	同二時	獨逸語○	同	同三時
支那歷史	同	同三時	○印ノ中一課目ヲ撰修スルモノトス		
支那語(一時)漢文學(一時)同	同	同二時	○印ノ中一課目ヲ撰修スルモノトス		
國史科			○印ノ中一課目ヲ撰修スルモノトス		
第一年			○印ノ中一課目ヲ撰修スルモノトス		
哲學概論	第一期	每週四時	史學	一年間	每週三時
史學	一年間	每週三時	國史及地理	同	同六時
國史及地理	同	同六時	法制史	同	同四時
法制史	同	同二時	國文學	同	同三時
國文學	同	同二時	漢文學	同	同一時
漢文學	同	同二時	支那歷史及法制	同	同二時
支那歷史及法制	同	同三時	比較法制史	同	同二時
比較法制史	同	同三時	古文書學	同	同一時
			英語○	同	同三時
			佛蘭西語○	同	同三時

獨逸語○

一年間 每週三時

○十印ノ課目ハ同印ノ一課目ヲ撰ムモノトス

第三年

史學科

美學及美術史	一年間	每週二時	哲學概論	第一期	每週四時
教育學	同	同二時	地文學	一年間	同一時
比較博言學+	同	同二時	史學及地理學	同	同七時
史學+	同	同二時	國史	同	同三時
比較宗教及東洋哲學	同	同二時	支那歷史	同	同二時
支那哲學○	同	同二時	羅甸語	同	同三時
印度哲學○	同	同二時	英語	同	同三時
社會學	同	同三時	獨逸語	同	同三時
國史	同	同六時			
法制史	同	同三時	第二年		
支那歷史及法制	同	同一時	人類學	一年間	每週二時
古文書學	同	同一時	比較宗教及東洋哲學	同	同二時

第五章 文科大學

一三一



社會學	一年間	每週三時	博言學科ハ羅旬語ヲ各語學ノ上位ニ記載
史學及地理學	同	同 八時	シ第一年第二年第三年ノ國語トアルヲ國
國史	同	同 三時	語學トスルノ外從前ノ通
支那歷史	同	同 二時	英文學科 <small>第一年ハ羅旬語ヲ各語學ノ上位ニ記載スルノ外從前ノ通</small>
古文書	同	同 一時	第二年
羅旬語	同	同 三時	第一期 每週三時
獨逸語	同	同 三時	第二三期 每週三時
美學及美術史	一年間	每週二時	一年間 同 三時
教育學	同	同 二時	比較宗教及東洋哲學 同 二時
史學及地理學	同	同 八時	音樂及ローマンズ語 一年間 同 二時
國史	同	同 三時	羅旬語 同 三時
古文書學	同	同 一時	佛蘭西語 同 三時
羅旬語	同	同 三時	獨逸語 同 三時
獨逸語	同	同 三時	英語 同 七時

美學及美術史	一年間	每週二時	國文學	一年間	每週三時
教育學	同	同 二時	羅旬語	同	同 三時
國文學	同	同 三時	英語	同	同 三時
羅旬語	同	同 三時	獨逸語	同	同 九時
佛蘭西語	同	同 三時	佛蘭西文學科	<small>第一年ハ羅旬語ヲ各語學ノ上位ニ記載スルノ外從前ノ通</small>	
獨逸語	同	同 三時	美學及美術史	一年間	每週二時
英語	同	同 九時	教育學	同	同 二時
獨逸文學科	<small>第一年ハ羅旬語ヲ各語學ノ上位ニ記載スルノ外從前ノ通</small>		國文學	同	同 三時
美學及美術史	一年間	每週二時	羅旬語	同	同 三時
教育學	同	同 二時	獨逸語	同	同 三時
			佛蘭西語	同	同 九時

明治二十八年、同二十九年に於て、又各々授業科目に就き小改正を行へるものありも今之を略す。



第二節 講座

明治二十六年九月勅令第九十三號を以て、帝國大學に講座を設置せられたることは、本卷第一篇第四章に述べたる如くなるが、今其の中文科大學に屬する講座を擧ぐれば左の如し。

- 國語學、國文學、國史 四講座
- 漢學、支那語學 三講座
- 史學、地理學 二講座
- 哲學、哲學史 二講座
- 心理學、倫論學、論理學 二講座
- 社會學 一講座
- 教育學 一講座
- 美學 一講座
- 博言學 一講座
- 英語學、英文學 一講座

獨乙語學、獨乙文學  
佛蘭西語學、佛蘭西文學

- 一講座
- 一講座
- 計二十講座

第三節 教職員異動

明治十九年文科大學の開設せらるゝや、舊東京大學文學部長教授外山正一學長に任じ、教頭の職を兼ねたり。開設當初に於ける教職員左の如し。

教授及教師

- |                              |             |
|------------------------------|-------------|
| 社會學、心理學                      | 外山正一        |
| 英文學、史學                       | チエムスメインヂクソン |
| 經學、支那歴史、支那哲學、漢文學、支那古代法制      | 島田重禮        |
| 和文學、日本歴史、日本古代法制              | 小中村清矩       |
| 經學、日本歴史、支那歴史、支那哲學、漢文學、和漢古代法制 | 内藤恥叟        |
| 和文學                          | 物集高見        |



博言學、和文學

パシル・ホール・チエム・バーレン

羅甸語、英語

神田乃武

講師

印度哲學

原 坦 山

同

吉 谷 覺 壽

梵語

南 條 文 雄

佛語

難 波 正

經學、支那歷史、支那哲學、漢文學、支那古代法制

南 摩 綱 紀

和文學

久 米 幹 文

心理學、史學、英語

坪 井 九 馬 三

哲學、審美學

チオル・ヂウキリヤム・ノツクス

獨語

パウル・マエツト

明治二十年に於て教師獨逸人三名の着任あり。即ち一月九日獨乙文學、教育學教師ドクトル・エミール・ハウスクネヒト及哲學、論理學、心理學、倫理學、審美學教師ド

クトル・ルドウキヒ・ブツセ、二月三日史學教師ドクトル・ルドキツヒ・リース來朝せり。

明治二十一年十月二十九日內閣修史局編修久米邦武、同星野恒教授に任じ、十一月九日元老院議官重野安釋文科大學教授に兼任す。同年二月十日修史局編修長重野安釋に本學年中の日本歴史講義を囑託し、尋いで九月八日次學年間の授業を囑託したり。七月五日英語學授業囑託講師日高眞實の囑託を解き、八月十日大學院學生上田萬年をして其の後を承けしめ、九月八日元良勇次郎に次學年精神物理學授業を、吉谷覺壽に印度哲學授業を夫々囑託せり。

此の年九月十日佛國人ピール・グザヴィエー・ムガブールを聘して佛蘭西語授業を囑託せり。

明治二十二年四月二十二日獨乙人ドクトル・カール・フロレンツに獨乙語學授業を囑託し、文科大学教師英國人ヂクソン滿期の所更に三ヶ年間繼續する事とす。九月十一日佛國人ムガブールに次學年度中佛蘭西語授業を、清國人張滋昉に支那語授業を囑託せり。

明治二十三年三月十九日田中稻城、十月七日元良勇次郎、同月二十三日井上哲次



郎何れも教授に任じ、九月六日上田萬年の講師囑託を解き、同月十日中島力造に倫理學授業を、野尻精一に教育學授業を、村上專精に印度哲學授業を夫々囑託す。

此の年五月二十日教師チャムバーレン病氣の爲め、一ケ年間の歸國靜養を許可せられ、歸國中歐洲に於ける東洋語學(特に日本語)の現況及前途に關する取調を囑託したるが九月解職せり。九月十一日佛國人ジェービー・ブーフニに來る十一月三十日まで佛蘭西語教導を囑託し、尋いで十二月更に翌年二月二十五日まで其の契約を繼續せり。

明治二十四年三月三十一日教授重野安釋、小中村清矩何れも依願免官となり、同内藤恥叟非職を命せられ、九月十七日文部書記官木村正辭教授に兼任す。三月三十一日重野安釋に史誌編纂委員長並文科大學講師を囑託し、小中村清矩に講師を囑託す。九月十七日第一高等中學校教授高津鐵三郎に國文學授業を、同月三十日大學院學生三上參次に日本法制沿革、日本歴史授業を、日高眞實に英語講師を夫々囑託し、南條文雄(梵語)難波正(佛語)の講師囑託を解けり。

明治二十五年三月四日教授久米邦武非職を命せられ、同十六日文學士日高眞實

高等師範學校教授兼文科大學教授に任じ、八月八日講師中島力造、十月二十八日栗田寛何れも教授に任じ、中島力造は倫理學、栗田寛は國文學を擔任す。七月十二日文學士三上參次女子高等師範學校教授兼文科大學助教授に任じ、日本法制沿革及日本歴史の講義を擔任す。三月三日田中義成に漢文學支那歴史講師を囑託す。

此の年七月三十一日ヂェームス・メイン・デクソンの囑託を解き、十二月二日ルドウキツヒ・ブツセ滿期解職となる。

明治二十六年九月七日日本學に講座制設けらる。文科大學に於ける講座及其の擔任者左の如し(外國人教師擔當の時は講座擔任とならず)。

國語學、國文學、國史第一講座	教授 栗田 寛
同 第二講座	教授 星 野 恒
同 第三講座	教授 黒川 眞頼
同 第四講座	教授 物集 高見
漢學、支那語學第一講座	教授 島田 重禮
同 第二講座	教授 竹添進一郎



同 第三講座

講師 張 滋 昉

史學、地理學第一講座

教授 坪井九馬三

同 第二講座

哲學、哲學史第一講座

教授 井上哲次郎

同 第二講座

心理學、倫理學、論理學第一講座

教授 元良勇次郎

同 第二講座

社會學講座

教授 中島力造

博言學講座

教授 外山正一

英語學、英文學講座

講師 神田乃武

獨乙語學、獨乙文學講座

佛蘭西語學、佛蘭西文學講座

明治二十六年九月九日教授日高眞實依願免官となり、九月十一日東京美術學校教授黒川眞頼教授に任じ、國語學、國文學、國史第三講座を擔任し、十月二十八日竹添

進一郎教授に任じ、漢學、支那語學第二講座を擔任す。九月十一日女子高等師範學校教授兼文科大學助教三上參次助教專任となり國史法制史を擔任す。同二十日第一高等中學校教授高津鐵三郎助教に任じ國文學を擔任す。

此の年六月十日露國人ラファエル・フォン・ケーベル教師となり哲學を擔任す。明治二十七年七月五日上田萬年教授に任じ博言學講座擔任を命せらる。二月九日第一高等中學校教授箕作元八に講師を囑託し史學を擔任せしむ。

明治二十八年四月九日教授星野恒國語學國文學國史第二講座分擔となり、九月二十六日教授竹添進一郎本官を免せらる。五月一日講師田中義成助教に任じ、國史支那歴史古文書學を擔任す。一月三十日宮島大八に講師を囑託し、漢學支那語學第三講座に屬する職務を分擔せしむ。三月二十三日高等師範學校教授本居豐頼に講師を囑託し、國語學國文學史學第二講座職務分擔を命ず。十月五日根本通明に講師を囑託し、漢學支那語學第二講座職務擔任を命ず。同日三島毅に講師を囑託し、漢學支那語學第三講座職務分擔を命じ、且作文の授業を囑す。同月十一日講師小中村清矩死去す。十二月二十六日本居豐頼の講師囑託を解く。



明治二十九年十月二十七日講師根本通明教授に任じ、漢學支那語學第二講座を擔任す。六月十五日林泰輔助教に任じ、支那歴史、支那哲學漢文學授業を擔任す。七月二十五日和田萬吉助教に任ず。同年一月二十一日元東京大學教授飯田武郷に講師を囑託し、國語學國文學國史第二講座職務分擔を命ず。二月十三日三島毅の講師囑託を解く。五月五日高等師範學校教授那珂通世に講師を囑託し、漢學支那語學第三講座職務分擔を命じ更に歴史授業を囑託す。九月二日小泉八雲に講師を囑託し、英語英文學授業を擔任せしむ。

猶明治二十六年以降同三十年に至る本分科大學各講座擔任者を表示すれば左の如し。明治三十年以後に及ぶものは線を以て示す。

國語學國文學國史第一講座

明治二六、九、九(擔任)

教授 栗田 寬

國語學國文學國史第二講座

明治二六、九、九(擔任)

明治二八、四、九

教授 星野 恒

明治二八、四、九(分擔)

明治二八、九、二六

教授 星野 恒

明治二八、三、二三(分擔)

同 二八、二、二六

講師 本居 豐 額

同 二九、一、二一(分擔)

講師 飯田 武 郷

國語學國文學國史第三講座

明治二六、九、一一(擔任)

教授 黒川 眞 頼

國語學國文學國史第四講座

明治二六、九、九(擔任)

教授 物集 高 見

漢學支那語學第一講座

明治二六、九、九(擔任)

教授 島田 重 禮

漢學支那語學第二講座

明治二六、一〇、二八(擔任)

明治二八、九、二六

教授 竹添 進 一郎

同 二八、一〇、五(擔任)

同 二九、一〇、二七

講師 根本 通 明

同 二九、一〇、二七(擔任)

教授 根本 通 明

漢學支那語學第三講座

明治二八、一、三〇(分擔)

明治二九、三、一三

講師 宮島 大 八

同 二八、一〇、五(分擔)

明治二九、三、一三

講師 三 島 毅



明治二九、五、五(分擔)

講師 那珂通世

史學地理學第一講座

明治二六、九、九(擔任)

教授 坪井九馬三

史學地理學第二講座

哲學哲學史第一講座

二六、九、九(擔任)

教授 井上哲次郎

哲學哲學史第二講座

心理學倫理學論理學第一講座

明治二六、九、九(擔任)

教授 元良勇次郎

心理學倫理學論理學第二講座

明治二六、九、九(擔任)

教授 中島力造

社會學講座

明治二六、九、九(擔任)

教授 外山正一

教育學講座

明治二七、一、二六(擔任)

講師 野尻精一

美學講座

博言學講座

明治二六、九、二一(分擔)

明治二七、四、一

講師 神田乃武

同 二七年七、五(擔任)

教授 上田萬年

英語學英文學講座

獨逸語學獨逸文學講座

佛蘭西語學佛蘭西文學講座



## 第四節 特約生教育學科

明治二十年獨逸人ドクトル・ハウスクネヒトの聘せられて文科大學教育學教師として來朝するや、其の從來の經驗に本づき本邦教育の改善に關し意見を提出する所あり。其の中に獨逸に於けるホーヘ、レーレルゼミナールの制に倣ひ、我が邦高等中學校及尋常中學校教員の養成に關し、特別の施設を爲すの議あり。其の議本學當局及文部省の納るゝ所となり、明治二十二年本分科大學に特約生教育學科を設くることとなり、ハウスクネヒトをして専ら其の教育に當らしめたり。該科は明治二十二年四月八日より明治二十三年七月中旬に至る一年有餘を以て學修期間と爲し、主として教育學教授法を授け且教授の實習を爲さしめんとするものにして、生徒は本學文科大學及理科大學の卒業生、文科大學、理科大學に於ける選科修了者、其の他人學試験に合格したる中等學校教員等とし、教育學、教授法及演習の外に猶二つの學科を選修せしめ、之を教育の見地より研究せしむるを目的とせり。明治二十二年三月生徒を募集したるに、文學士又は理學士にして募集に應じたるものなく、唯一人の文科大學選科修了者の外は、既に中等學校に於て教育に従事し

居るもののみ。乃ち其の中に就き試験を行ひ十數名に入學を許したるが、二十三年七月に於て該科の業を卒へたるものは十二名なりき。此等の生徒の卒業すると同時にハウスクネヒトの任期満ち、ハウスクネヒトは任期満ちて歸國したれば、之と同時に該科は廢止せられたり。該科規則を録すること左の如し。

## 特約生教育學科規則

- 第一 特約生教育學科ハ高等尋常兩中學校教諭タルヘキモノヲ養成スル爲メ設立スルモノニシテ已ニ諸科學ノ學修ヲ了リシモノヲシテ尙ホ教育學及教授方ヲ研修セシムルモノトス
- 第二 特約生教育學科ハ帝國大學文科大學中ニ設立シ特約生ハ同大學ノ管轄ニ屬ス
- 第三 文學士理學士又ハ文科大學理科大學ニ於テ二科目以上ノ撰科ヲ完了セル者ニシテ特約生教育學科修業ヲ願フモノハ試験ヲ用キス入學ヲ許可スベシ
- 第四 文部省學力檢定試験ニ及第シタル尋常師範學校教員及尋常中學校教員ニシテ特約生志願ノ者ハ第六項ニ掲グル英語ノ入學試験ヲ施スベシ
- 第五 第三項第四項ニ掲クル者ニ非スシテ特約生志願ノモノハ第六項ノ英語入學試験



ヲ施シ且左記ノ十三科目中二科目ノ試験ヲ施スヘシ

一倫理學 二和文學 三漢文學 四地理學 五史學 六數學 七物理學 八化學  
九生理學 十動物學 十一植物學 十二金石學及地質學 十三畫學

第六 第四項及第五項ニ該當スル志願者ノ英語ノ學力ハ左ニ掲クル三書中何レノ章句  
モ之ヲ理解解釋翻譯及注解スルノ力アルヲ要ス

一ジエホン氏論理學(サイエンス、プライメル)

二ペーショナル氏教育史

三ペイン氏エジケーション、アス、エ、サイエンス

右ノ外英語ノ談話ヲ解シ且自ラ英語ヲ以テ談話シ得ルヲ要ス

第七 第五項ニ該當スル志願者ノ試験ヲ要スル二學科ハ高等師範學校ノ學科ヲ修了シ  
タルモノト同一ノ學力アルヲ要ス

第八 特約生ハ修學中教育學科講授ノ外二科目ヲ撰修セシムルモノトス即チ第三項ニ  
該當スルモノハ大學課程トシテ學修シタル學科中二科目ヲ撰擇セシメ第四項第五項  
ニ該當スル者ハ第五項ニ掲クル十三科目中二科目ヲ撰擇セシム又第五項ニ掲クル十  
三科目ノ外選修科トシテ英語若クハ獨逸語ヲ撰ムコトヲ得

第九 第四項及第五項ニ該當スル志願者ニシテ二科目ノ一トシテ英語ヲ撰ムモノハ第  
六項ノ學力ヲ要スルノ外高等中學本科一部ノ學科(法科文科ヲ專)卒業者ト同一ノ學  
力ヲ有シ且ツ英語ノ談話自在ナルヲ要ス

第十 第四項及第五項ニ該當スル志願者ニシテ二科目中ノ一トシテ獨逸語ヲ撰ムモノ  
ハ高等中學本科一部ノ學科前項ニ同シ卒業者ト同一ノ學力ヲ有シ且獨逸語ノ談話自  
在ナルヲ要ス

第六項ニ掲クル英語ニ要スル學力ハ獨逸語ヲ撰ムモノニ於テモ亦之ヲ要ス

第十一 特約生ノ課業ハ教育學講義教育學演習豫修科及體操術トシ又終期ニ於テ其學  
校ニ就キ授業方ヲ實修スルモノトス

第十二 特約生ハ修業ノ終ニ於テ最終試験ヲ施ス

其試験ノ方法左ノ如シ

一教育學科試験

二撰修學科試験

文學士理學士及文科大學理科大學ニ於テ二科目以上ノ撰科ヲ完了セル者ニアラザル  
特約生ハ右ノ外左ノ一科ヲ加フ



三英語試験

第十三 教育學科最終試験ハ學科講義及演習ニ於テ授ケタル各學科全體ノ試験ヲ施スヘシ

第十四 撰修學科二科目ノ最終試験ハ該撰修科ニ就キ更ニ深ク研究セシヤ否ヲ點檢スルニ在リ

一文學士理學士及文科大學理科大學ニ於テ二科目以上ノ撰科ヲ完了シタルモノニシテ特約生タルモノハ撰修學科二科目ニ就キ會テ講授セラレタル講義ヲ完ク復習シタルノミナラス更ニ其三年間ノ學業ヲ教育學理ノ點ヨリ研究シタルノ成績ヲ表スルヲ要ス

二高等師範學校卒業生ニシテ特約生タルモノハ撰修二科目ニ就キ之ヲ復習シタルノミナラス又其學科授業ノ方法ヲ研究シタル成績ヲ表スルヲ要ス

三第五項ニ該當スル特約生ハ特約生學科ニ入學ノトキ撰修シタル學科ヲ在學中研修シ且其學科授業ノ方法ヲ研究シタル成績ヲ表スルヲ要ス

第十五 第十二項第三款ノ英語試験ハ英語及作文ノ二課稍熟練シタルノ成績ヲ表スルヲ要ス

第十六 特約生ハ大學學生ト同ク圖書館規則ニ依リ大學圖書館ノ圖書ヲ閱覽スルコトヲ得

第十七 特約生ハ學科上ノ妨礙トナラサルトキハ大學中他學科ノ講義ヲ聽聞スルコトヲ得

第十八 第十二項第十三項第十四項ニ掲クル最終試験ヲ了シタル特約生ニハ其修業學科即チ教育學授業方及撰修二科目試験ノ成績ニ依リ證書ヲ授クベシ

但第四項第五項ニ該當スルモノニハ英語ノ成績ニ就キ別ニ證明書ヲ與フヘシ

第十九 特約生學科ハ二十二年四月八日ヲ以テ始メ二十三年七月中旬ヲ以テ終ル

但志願者中不得止事故ノ爲メ四月ニ於テ入學スル能ハサルモノハ願ニ依リ九月九日ニ於テ特ニ入學ヲ許スヘシト雖モ此輩ハ入學ノ節更ニ餘分ノ試験ヲ行フヘシ即チ四五月中講授ノ業ヲ豫メ在學者ノ筆記ニ就キ學修セシメ九月入學ノトキニ於テ之レカ試験ヲ施スヘシ

第二十 入學試験ハ來ル三日二十五日ヨリ施行ス入學志願者ハ三月二十日迄ニ文科大學へ出願スルヲ得



## 第六章 理科大學

舊東京大學理學部は初め純然たる理學科の外に工學科をも合せたるが、明治十八年十二月理學部中の工學科及附屬造船學科を理學部より分離して、獨立の工藝學部を組織することとなれり。即翌年三月帝國大學に設けられし理科大學は工學に關する學科を除きたる舊東京大學理學部の事業を繼承せるものなり。當初亦分科大學通則以外に特別の規則を制定せるものなかりしを以て、規則類の改廢の擧ぐべきものなし。但學科の性質上天文臺、植物園、地震學實驗所及臨海實驗所を有し夫々特殊の研究の處たるが、其の沿革等は別に第六卷に於て記すべければ、此處には之を略すべし。

### 第一節 學科編成

舊東京大學理學部は八學科より成りたるが、其中工學科及採鑛冶金學科を明

治十八年十二月工藝學部に移したれば、餘すところは六學科のみ。帝國大學理科大學は右六學科を繼承し、生物學科と稱せるを動物學科及植物學科に分け、左の七學科より成れり。但動物學科及植物學科の課程を見るに、第一年及第二年の課程は共通にして、第三年に至つて始めて動物學科と植物學科と截然區別せられたり。而して學科の順序に關しては、舊理學部時代には第五位に置かれたる星學科を第二位に進めたり。理科大學開設當時の各學科の學科課程左の如し。

#### 學科課程

本學ニ左ノ七學科ヲ設ケ修業ノ期限ヲ各三ケ年トス

第一 數學科

第二 星學科

第三 物理學科

第四 化學科

第五 動物學科

第六 植物學科

#### 第六章 理科大學



數學科

微分積分	第一年	第一期	同	每週	三時	幾何光學	第二期	每週	三時
純正數學	第一年	第一期	同	每週	三時	最小二乘法	第一期	同	三時
物理學	第一年	第一期	同	每週	三時	力學	一年間	同	三時
力學	第一年	第一期	同	每週	三時	高等物理學	同	同	五時
球面星學	第一年	第一期	同	每週	三時	物理學實驗	同	同	二回午後
星學實驗	第一年	第一期	同	每週	三時	數學演習	同	同	三時
數學演習同	第一年	第一期	同	每週	三時	獨語	同	同	三時
物理學實驗	第一年	第一期	同	每週	三時	純正數學	一年間	每週	五時
獨語	第一年	第一期	同	每週	三時	力學	同	同	三時
純正數學	第二年	第一期	同	每週	三時	高等物理學	同	同	六時
	第二年	第二期	同	每週	三時	星學	同	同	四時
	第二年	第三期	同	每週	三時	數學演習	同	同	二回午後

星學科

微分積分	第一年	第一期	同	每週	三時	力學	一年間	每週	三時
純正數學	第一年	第一期	同	每週	三時	高等物理學	同	同	五時
物理學	第一年	第一期	同	每週	三時	星學	同	同	二時
力學	第一年	第一期	同	每週	三時	星學實驗	一年間	同	四時
球面星學	第一年	第一期	同	每週	三時	物理學實驗	同	同	二回午後
星學實驗	第一年	第一期	同	每週	三時	數學實驗	同	同	二回午後
數學演習	第一年	第一期	同	每週	三時	獨語	同	同	三時
物理學實驗	第一年	第一期	同	每週	三時	力學	一年間	每週	三時
獨語	第一年	第一期	同	每週	三時	星學	同	同	四時
	第二年	第一期	同	每週	三時	高等物理學	同	同	六時
	第二年	第二期	同	每週	三時	星學實驗	同	同	二回午後
	第二年	第三期	同	每週	三時	數學演習	同	同	二回午後
	第二年	第四期	同	每週	三時	物理學科	同	同	二回午後



微分積分	第一期 每週三時 第二期 同 第三期 同	數學演習	一年間 每週二回午後
純正數學	第一期 同	物理學實驗	同
力學	一年間 同	獨語	同
物理學	同	力學	第三年 一年間 每週三時
球面星學	同	高等物理學	同
化學實驗	第一期 同	物理學	同
物理學實驗	第一期 同	化學實驗	同
數學演習	第一期 同	星學實驗	同
獨語	同	物理學實驗	同
純正數學	一年間 每週二時	實驗所ハ毎日午前八時ニ開キ午後五時ニ閉ツ	
最小二乘法	第一期 同		
幾何光學	第二期 同	化學科	
力學	一年間 同	第一期	
高等物理學	同	純正數學	一年間 每週三時

力學	一年間 每週三時	バクテリア學	第一期 同
物理學	同	化學實驗	一回午後
化學實驗	同	動物學科	
鑛物學及實驗	同	植物學科	
獨語	同	動物及植物ノ兩學科學生ハ第一及二年級中同一ノ學科ヲ履修セシム	
高等物理學	一年間 每週五時	植物學	一年間 每週二時
化學	同	植物學實驗	同
生理化學	同	動物學	同
物理學實驗	同	動物學實驗	同
化學實驗	同	地質學	同
獨語	同	生理化學及實驗	同

理論及物理化學	一年間 每週二時	岩石及鑛物實驗	第一期 同
光線化學	第一期 同	羅旬語	一年間 同
獨語	同		
第三年			
理論及物理化學	一年間 每週二時	岩石及鑛物實驗	第一期 同
光線化學	第一期 同	羅旬語	一年間 同



獨語

一年間 每週三時

動物學

第二年

動物學實驗

植物學

一年間 每週三時

バクテリア學

植物學實驗

同 同 十時

植物學

植物學

組織學

第一期 同 三時

植物學

組織學實驗

同 同 十時

植物學實驗

生理學

(第一期 同 二時  
第二期 同 二時)

バクテリア學

古生物學

同 同 二時

地質學科  
第一年

有脊動物比較解剖學

第二期 同 二時

礦物學

一年間 每週二時

發生學實驗

同 同 十時

地質學

同 同 二時

臨海實驗

同 同 十時

動物學

同 同 二時

獨語

一年間 同 三時

化學實驗

同 同 六時

第三年

植物學實驗

同 同 二時

動物學

地質礦物學實驗

同 同 十時

獨語

一年間 每週三時

化學實驗

一年間 每週六時

地質巡驗

同 同 三時

獨語

同 同 三時

第二年

地質巡驗

古生物學

一年間 每週二時

第三年

岩石學

同 同 二時

吹管分析

一年間 每週一時

晶像學

同 同 一時

地質及礦物學特別編

動物學實驗

同 同 四時

同 同

同 同 二時

地質及礦物學實驗

同 同 十時

地質及礦物學實驗

同 同 二十時

明治二十年九月九日各分科大學學科課目の改正を行ひたる際、理科大學の學科課程にも亦變更を加へられたり。改正せられたる學科課程左の如し。

數學科

第一年

微分積分

一年間 每週四時

力學初步

一年間 每週至四時乃

純正數學

第一期 同 三時

球面星學

同 同 三時

第六章 理科大學

一三四一



第二篇 大學院及分科大學

一三四二

物理學實驗	一年間 每週二回午後	力學	一年間 每週三時
獨逸語	同 同 三時	星學理論	同 同 四時
		高等物理學	同 同 六時
		高等數學雜論	同 同 一回午後
		數學演習	同 同 二回午後
		力學(隨意)	同 同 二時
		星學科	
		微分積分	一年間 每週四時
		純正數學	第一期 同 三時
		力學初步	一年間 同 三時
		球面星學	同 同 三時
		實地星學	同 同 一時及一回夜
		數學演習	同 同 二回午後
		物理學實驗	同 同 二回午後
		獨逸語	同 同 三時
		函數論大意	一年間 每週五時
		第三年	
		獨逸語	同 同 三時
		物理學實驗	同 同 二回午後
		數學演習	同 同 二回午後
		高等數學雜論(隨意)	同 同 一回午後
		高等物理學	同 同 五時
		力學	一年間 同 三時
		幾何光學	第二期 同 三時
		最小二乘法	第一期 同 三時
		純正數學	第三期 同 三時
		橢圓函數論初步	一年間 同 二時

第二年

第一年

獨逸語 一年間 每週 三時

星學理論 一年間 每週 四時

橢圓函數論初步 一年間 每週 二時

數學演習 同 同 二回午後

最小二乘法 第一期 同 三時

星學實驗 一年間 每週 二時

幾何光學 第二期 同 三時

力學(隨意) 一年間 每週 二時

力學 一年間 同 三時

物理學科 第一年

高等物理學 同 同 五時

微分積分 一年間 每週 四時

星學 同 同 二時

純正數學 第一期 同 三時

星學實驗 同 同 四時

力學初步 一年間 同 三時

數學演習 同 同 二回午後

球面星學 同 同 三時

物理學實驗 同 同 三時

化學實驗 第一期 同 三回午後

獨逸語 同 同 三時

物理學實驗 第一期 同 三回午後

力學 一年間 每週 三時

數學演習 同 同 二回午後

高等物理學 同 同 六時

獨逸語 同 同 三時

第六章 理科大學

一三四三

第三年

力學 一年間 每週 三時

獨逸語 同 同 三時

高等物理學 同 同 六時

獨逸語 同 同 三時

力學 一年間 每週 三時

獨逸語 同 同 三時

高等物理學 同 同 六時

獨逸語 同 同 三時

力學 一年間 每週 三時

獨逸語 同 同 三時

高等物理學 同 同 六時

獨逸語 同 同 三時

力學 一年間 每週 三時

獨逸語 同 同 三時



第二篇 大學院及分科大學

橢圓函數論初歩 一年間 每週 二時  
 最小二乘法 第一期 同 三時  
 幾何光學 第二期 同 三時  
 力學 一年間 同 三時

化學科 第一年  
 微分積分 一年間 每週 三時  
 力學初歩 同 同 三時  
 高等物理學 (第二期下半期第三期) 同 三時

高等物理學 同 同 五時  
 數學演習 同 同 二回午後  
 物理學實驗 同 同 三回午後  
 獨逸語 同 同 三時

分析化學 第一期 每週 二時  
 礦物學 同 同 二時  
 礦物實驗 同 同 二時  
 獨逸語 同 同 三時

力學 一年間 每週 三時  
 高等物理學 同 同 六時  
 數學演習 同 同 二回午後  
 星學實驗 同 同 四時  
 物理學實驗 同 同 三回午後  
 力學(隨意) 同 同 二時

無機化學 一年間 每週 三時  
 有機化學 同 同 三時  
 生理化學及實驗 第一期 同 三時  
 高等物理學 一年間 同 五時

化學實驗 一年間 每週三回 午後  
 物理學實驗 同 同 三時  
 獨逸語 同 同 三時

植物學實驗 一年間 每週 八時  
 地質學 同 同 二時  
 生理化學及實驗 第一期 同 三時  
 礦物及岩石實驗 (第二期) 同 二時

化學理論ノ歴史 第一期 每週 二時  
 理論及物理化學 (第二期) 同 二時  
 光線化學 第一期 同 二時  
 光線化學實驗 同 一回午後  
 化學實驗 同 一回午後  
 バクテリア學 第三期 同 六時

羅旬語 一年間 同 二時  
 獨逸語 同 同 三時  
 特別問題講義(隨意) 時々 每週 二時  
 植物學(分類及應用) 一年間 同 四時  
 植物學實驗 同 同 十時  
 有脊動物比較解剖 (第一期) 同 二時  
 組織學及發生學 (第二期) 同 三時  
 生理學 一年間 同 十時  
 古生物學 同 同 三時  
 獨逸語 同 同 三時

普通動物學 一年間 每週 三時  
 動物學實驗 同 同 八時  
 植物學(組織及形質) 同 同 二時

植物學(組織及形質) 同 同 二時

第六章 理科大学



臨海實驗 一年間

動物學

第三年

特別問題講義(隨意) 時々 每週 二時

實地研究 第一期 每週 二時

寄生動物學(隨意) 第三期 同 六時

植物學 一年間 每週 三時

植物學

第三年

植物學實驗 同 二十時以上

バクテリア學 第三期 同 六時

地質學科

第一年

地質學 一年間 每週 二時

地質學叢談 一年間 每週 二時

鑛物學 同 同 二時

植物學 同 同 二時

普通動物學 同 同 三時

植物學實驗 同 同 二時

化學實驗 同 同 六時

地質學實驗 同 同 二十時

獨逸語 同 同 三時

地質巡驗 同 同 三時

第二年

岩石學 一年間 每週 二時

地質學叢談 同 同 二時

古生物學 同 同 二時

古生物學實驗 同 同 三時

晶像學 同 同 二時

動物學實驗	一年間 每週	四時	地質學叢談	一年間 每週	二時
化學實驗	同	六時	地質學實驗	同	二十時
地質學實驗	同	二十時	以上諸學科ノ外理科大學ニ於テハ分科		
獨逸語	同	三時	大學々生特ニ工科大學造家學科學生等		
地質巡驗	同	三時	ノ爲メニ左ノ講義ヲ聞ク		
	第三年		地震學(隨意)	(第二期 每週)	一時
				(第三期 每週)	

明治二十一年以降學科課程に屢々變更を加へられたるが、其の小なるものは今一々之を擧げず、稍々重要なる改正と認むるものを掲載すべし。  
 明治二十六年に於て各學科全般に涉り改正を加へられたり。其の結果を擧ぐれば左の如し。

數學科	第一年	力學初步	一年間 每週	三時乃至四時
		球面星學	同	二時
微分積分	一年間 每週	數學演習	同	二回午後
解析幾何學	同	物理學實驗	同	二回午後
	第六章			一三四七



第二篇 大學院及分科大學

第二年

微分方程式論、楕圓函數論

一年間 每週 三時

高等幾何學 同 同 二時

最小二乘法 (第一期同) (第二期同) 二時

力學 同 同 二時

高等物理學 同 同 五時

高等數學雜論(隨意) 同 同 一回午後

數學演習 同 同 二回午後

物理學實驗 同 同 二回午後

第三年

函數論 一年間 每週 三時

力學 同 同 三時

高等物理學 同 同 六時

數學演習 同 同 二回午後

一三四八

數學研究(隨意) 一年間 每週一回午後

星學理論(隨意) 同 同 三時

力學(隨意) 同 同 三時

星學科

第一年

微分積分 一年間 每週 五時

解析幾何學 第一期同 三時

力學初步 一年間同 三時至四時

球面星學 同 同 三時

實地星學 同 同 三時

數學演習 一年間 每週二回午後

第二年

微分方程式論(楕圓函數論) 一年間 每週 三時

最小二乘法 (第一期同) (第二期同) 二時

力學 一年間同 二時

高等物理學 (半年間) (半年間) 每週 三時

星學 (第一期) (第二期) 同 同 四時

星學實驗 同 同 二時

數學演習 一年間 每週一回午後

物理學實驗 同 同 三回午後

第三年

力學 一年間 每週 三時

星學理論 同 同 三時

數學演習 同 同 二回午後

星學實驗 同 同 二回午後

力學(隨意) 一年間 每週 三時

函數論(隨意) 同 同 三時

物理學科

第一年

微分積分 一年間 每週 五時

第六章 理科大學

解析幾何學 第一期 每週 三時

力學初步 一年間同 四時至

球面星學 同 同 二時

化學實驗 (第一期) (第二期) (第三期) 同 同 同 三回午後

物理學實驗 第三期同 三回午後

數學演習 一年間 同 二回午後

第二年

微分方程式論(楕圓函數論) 一年間 每週 三時

最小二乘法 (第一期) (第二期) 同 同 二時

力學 一年間同 二時

高等物理學 同 同 五時

數學演習 同 同 一回午後

物理學實驗 同 同 一回午後

第三年

力學 一年間 每週 三時

一三四九



高等物理學	一年間 每週 六時	高等物理學	{第一期 每週 五時
數學演習	同 同 二回午後	物理學實驗	一年間 同 二回午後
星學實驗	同 同 四時	無機化學	同 同 三時
物理學實驗	同 同 四時	有機化學	{第二期 同 三時
力學(隨意)	一年間 每週 三時	化學實驗	{第三期 同 五時
函數論(隨意)	同 同 三時	化學實驗	同 同 三時
化學科		理論及物理化學	第三年 一年間 每週 三時
第一年		無機化學	同 同 三時
微分積分	{第一期 每週 五時	化學實驗	同 同 三時
力學初步	一年間 同 三時至四時	普通動物學	第一年 一年間 每週 三時
高等物理學	{第二期 同 三時	骨骼學	{第二期 同 一時
生理化學及實驗	第一期 同 三時	動物學實驗	一年間 同 十時
化學實驗	第一期 同 三時	植物學	同 同 四時
數學演習	{第一期 同 一回午後		
第二年			

植物學實驗	一年間 每週 十時	特別問題	時々 每週 二時
地質學	同 同 三時	實地研究	時々 每週 二時
生理化學及實驗	第一期 同 三時	寄生動物學	第一期 每週 二時
礦物及岩石實驗	{第二期 同 二時	バクテリア學實驗	第三期 同 二回午後
特別問題(隨意)	時々 每週 二時	人類學	一年間 同 二時
植物學	一年間 同 四時	植物學科	
植物學實驗	同 同 十時	植物學叢談	第三年 時々 每週 二時
有脊動物比較解剖	同 同 三時	植物學實驗	一年間 同 二十時以上
組織學及發生學實驗	同 同 十二時	バクテリア學實驗	第三期 同 二回午後
生理學	同 同 三時	地質學科	
古生物學	同 同 二時	地質學	第一年 一年間 每週 三時
臨海實驗	同 同 二時	礦物學	同 同 二時
動物學科		岩石學	一年間 每週 二時
第三年			



普通動物學	同	同	三時	
骨骼學	(第一期)	同	一時	晶像學實驗
動物學實驗	一年間	同	四時	地質學叢談
化學實驗	同	同	二回午後	地質研究
地質學實驗				地震學(隨意)
地質巡驗				人類學
	第二年			以上諸學科ノ外理科大學ニ於テハ分科
古生物學	一年間	每週	二時	大學生特ニ工科大學土木工學科及造家
古生物學實驗	同	同	三時	學科學生等ノ爲メニ地震學文科大學史
晶像學	同	同	二時	學科學生等ノ爲メニ人類學ノ講義ヲ開
晶像學實驗	同	同	四時	ク
植物學	同	同	四時	地震學
植物學實驗	同	同	三時	第一期 每週 二時
地質學實驗				人類學大意
地質巡驗				人類學 土俗學 一年間 同 二時
				考古學

明治二十八年八月二十日各學科に涉り若干の改正を加へたり。改正の要點及改正の理由左の如し。

改正要點

數學科第一年	現在	改正
解析幾何學	一年間 每週 三時	幾何學 一年間 每週 三時
力學初步	同 同 三時乃至五時	力學 同 同 三時乃至四時
第二年		
高等幾何學	一年間 每週 二時	幾何學 一年間 每週 二時
高等物理學	同 同 五時	物理學 同 同 五時
高等數學雜論(隨意)	同 一回午後	數學雜論(隨意) 同 一回午後
第三年		
高等物理學(隨意)	一年間 每週 六時	物理學(隨意) 一年間 每週 六時
星學科第一年		
力學初步	一年間 每週 三時乃至四時	力學 一年間 每週 三時乃至四時



第二篇 大學院及分科大學

一三五四

第二年

高等物理學 半年間 每週 五時 物理學 半年間 每週 五時

物理學科第一年 同 半年間 每週 三時

力學初步 一年間 每週 三時 力學 一年間 每週 三時

第二年

高等物理學 一年間 每週 五時 物理學 一年間 每週 五時

第三年

高等物理學 一年間 每週 六時 物理學 一年間 每週 五時

化學科第一年 一年間 每週 六時

力學初步 一年間 每週 三時 力學 一年間 每週 三時

高等物理學 半年第二期下 同 三時 物理學 下半年間 同 三時

第二年

高等物理學 第一期 每週 五時 物理學 第一期 每週 五時

動植物學科第一年

植物學 一年間 每週 四時 普通植物學 一年間 每週 三時

植物學實驗 同 同 十時 植物識別及解剖實驗 同 同 十時

第二年

植物學 一年間 每週 十時 植物解剖及生理實驗 一年間 每週 十時

植物學實驗 同 同 四時 植物分類學 同 同 四時

動物學科第三年

バクテリア學實驗 第三期 每週二回午後 植物生理學 第一期 每週 二時

植物學科第三年

植物學叢談 時々 每週 二時 植物生理學 同 同 二時

バクテリア學實驗 第三期 同 二回午後 植物生理學 同 同 二時

地質學科第一年

地質學實驗 一年間 每週二回午後 鑛物學實驗 同 同 二時

地質學實驗 同 同 二時

晶像學實驗 一年間 每週 四時 晶像學實驗 一年間 每週二回午後

晶像學實驗 同 同 四時

晶像學實驗 同 同 四時

晶像學實驗 同 同 四時

晶像學實驗 同 同 四時

晶像學實驗 同 同 四時

晶像學實驗 同 同 四時

晶像學實驗 同 同 四時

晶像學實驗 同 同 四時

第六章 理科大學

一三五五



同 第三年

晶像學實驗 一年間 每週二回午後 全廢

地質研究 地質學及鑛物學研究

改正理由

數學科第一年

解析幾何學ヲ幾何學ト改メタルハ解析幾何學ノ外ニ近世幾何學ヲモ學修セシムルニ依ル又力學初步ハ實際高尚ナル力學ヲ學修セシムルモノナルヲ以テ初步ノ二字ヲ刪除ス但星學科物理學科化學科第一年ノ力學初步ヲ力學ト改ムルノ理由亦本文ニ同シ

同 第二年

高等幾何學高等物理學高等數學雜論ノ高等ノ二字ヲ刪除シタルハ本學ニ於テ授クルモノ高等ノ學術ナラサルナキヲ以テ特ニ高等ノ二字ヲ冠スルノ必要ナキニ依ル

但シ星學科第二年物理學科第二年及第三年化學科第一年及第二年ノ高等物理學ヲ物理學ト改ムルノ理由亦本文ニ同シ

動植物學科第一年

植物學ヲ普通植物學ト改メタルハ第一年ニ於テ植物學一般普通ノ事項ヲ授ケ第二年ニ

於テハ分類學ヲ授クルヲ以テ其區別ヲ明記スルノ必要アルニ依ル

其授業時間一時ヲ減シタルハ學生ノ負擔ヲ輕減スルノ必要アルニ依ル又植物學實驗ヲ植物識別及解剖實驗トセシハ實際從事スル實驗ノ要目ヲ明記スルニ依ル

同 第二年

植物學實驗ヲ植物解剖及生理實驗トシ植物學ヲ植物分類學ト改メタルノ理由ハ第一年ニ於ケルト同シ

動物學第三年

バクテリア學實驗ヲ第二期ニ移シタルハ第三期ニ於テ卒業論文編著ノ爲多數ノ時間ヲ要スルニ依ル

植物學科第三年

植物學叢談ヲ植物生理學ニ改メタルハ高尚ナル植物生理學ヲ授クルノ必要アルニ依ル又バクテリア學實驗ヲ第二期ニ移シタル理由ハ動物學科第三年ニ於ケルト同シ

地質學科第一年

地質學實驗ヲ岩石學實驗ト鑛物學實驗トノ二科目トナシタルハ授業上之ヲ分別シ且其授業時數ヲ明記スルノ必要アルニ依ル



同 第二年

晶像學實驗ノ每週四時ヲ每週二回午後ト改メタルハ第二年ノ時數ヲ増シ第三年ニ於テ該實驗ヲ廢シタルニ依ルナリ

同 第三年

地質研究ヲ地質學及鑛物學研究ト改メタルハ鑛物學研究ヲモ併セ課スルノ必要アルニ依ル

第二節 講座

明治二十六年九月勅令第九十三號を以て帝國大學に講座を設置せられたることは、本卷第一篇第四章に述べたる如くなるが、今其中理科大學に屬する講座を擧ぐれば左の如し

- 數學 二講座
- 應用數學 一講座
- 星學 二講座
- 物理學 二講座

- 化學 二講座
- 動物學 二講座
- 植物學 一講座
- 地質學、古生物學、鑛物學 三講座
- 地震學 一講座
- 人類學 一講座

計十七講座

明治二十八年四月二十二日勅令第五十三號を以て、理科大學に植物學一講座を増設す。是れより先明治二十七年五月二十三日評議會に於て、植物學一講座増設を決議せしが、二十八年二月三日に至り、植物學講座増設、同講座擔任教授一名、星學擔任教授一名の増員を文部大臣に左の如く上申せり。

植物學ハ植物分類學及植物生理學ノ二科ニ分チ各專門學教授ヲシテ之ヲ專擔教導センムルハ學術上必要ノコトニシテ猶一層其完全ヲ圖ラハ進ンテ分類學中ノ顯花植物隱花植物ノ二科ヲモ分離專擔セシムルコトヲ可トセン然ルニ現今一教授ヲシテ植物分類植



物生理ノ二科ヲ兼ネ教導セシムルカ如キハ其學術ノ進歩ヲ圖ルノ道ニ於テ缺タル所ナシトセス且植物學ノ授業ハ動物學及地質學科ノ學生ニ涉リ其講義實驗ニ要スル時間多キノミナラス廣ク各地植物ノ調査ヲ要シ又兼テ植物園管理ノ事務ヲモ擔任スルヲ以テ一人ノ能ク負擔スル所ニアラス依テ植物分類學及植物生理學ノ二科ヲ各專門教授ニ專擔セシメンカ爲メ此際植物學ヲ二講座ニ分設シ更ニ專任教授一名ノ増員ヲ要ス但目下植物學專攻ノ爲海外ニ留學スルモノ、歸朝ヲ俟テ同教授ニ任用セラレンコトヲ期ス斯くて植物學一講座増設せられ、第一、第二講座となれり。

第三節 教職員異動

理科大學は舊東京大學理學部の事業を繼承したるものなるを以て、開設當初に在りては舊理學部の教職員を以て組織し、教授菊池大麓學長に、教授矢田部良吉教頭に任せられ、其他教授助教等左の如し。

教授及教師

化學  
植物學

エドワルド・ダイバルス

矢田部良吉

數學

菊池大麓

物理學

山川健次郎

化學

櫻井錠二

動物學

箕作佳吉

物理學

カルギール・ジーン・ソット

星學

寺尾壽

地質學

小藤文次郎

鑛物學

和田維四郎

動物學

飯島魁

古生物學

原田豊吉

地震學

關谷清景

助教

數學

三輪桓一郎

物理學

田中館愛橘

化學

吉田彦六郎



地質學

菊池安

植物學

大久保三郎

化學

坪和爲昌

講師

物理學

村岡範爲馳

化學

久原躬弦

生物學

松原新之助

明治二十年五月三十一日理學士藤澤利喜太郎教授に任じ數學授業を擔任す。  
八月二十四日助教授三輪桓一郎學習院教授に轉任し、尋いで九月十九日再び助教授兼任を命ぜらる。

明治二十一年一月六日助教授田中館愛橘依願免官となり、八月三十一日助手松村任三助教授に任じ植物學授業を擔任す。九月十二日理學士長岡半太郎に物理學實驗指導を囑託せり。六月二日教授寺尾壽をして天文臺長を兼任せしむ。

明治二十二年十一月二十二日理學士横山又次郎教授に任じ古生物學授業を擔

任し、十月二十三日助手理學士石川千代松助教授に任じ動物學授業を擔任す。八月十七日天文臺長教授寺尾壽萬國測地會議委員に任せられ佛國に派遣せらるゝに就き、同月三十一日菊池大麓天文臺長事務取扱を命ぜらる。

明治二十三年四月十七日教授關谷清景非職を命ぜられ、九月十三日助教授松村任三教授に任じ擔任故の如し。四月二日助手長岡半太郎助教授に任じ物理學授業を擔任す。十一月十五日助教授吉田彦六郎非職を命ぜられ、尋いで翌二十四年四月十三日依願免官となる。一月一日大學院學生理學士池田菊苗に簡易講習科英語教導を、九月十日同五島清太郎に簡易講習科生徒英語授業を囑託す。七月十三日理學士平山信助手に任じ、尋いで九月六日依願免職となれり。

明治二十四年三月三十一日教授矢田部良吉、四月二十二日教授原田豊吉何れも非職を命ぜらる。七月九日教授和田維四郎依願免官となり、同月二十二日理學士田中館愛橘教授に任じ物理學授業を擔任す。五月六日東京天文臺事業補助囑託蘆野敬三郎に星學授業を、七月十日大學院學生理學士大森房吉に地震學助手を、九月十五日理學士澤田吾一に簡易講習科數學科授業補助を、十八日高等師範學校教



授齊田功太郎に本學年中簡易講習科植物學科授業を夫々囑託し、九月十七日五島清太郎の簡易講習科囑託を解く。

是の年六月十九日教師カーギル・キルストン・ノット歸國す。在職中の功を以て勳四等に叙せられ、特に拜謁を仰付けられたり。本學又其の勞に酬ゆる爲め七寶燒額及香合を贈れり。

明治二十五年十月二十八日理學士坪井正五郎教授に任じ人類學授業を擔任す。

四月十六日大森房吉の地震學助手囑託を解き、更に地震學取調囑託を命ず。

明治二十六年九月十一日教授山川健二郎、菊池大麓に代つて學長に補せらる。

四月十一日教授關谷清景復職を命せらる。九月七日帝國大學に講座を設けられ、理科大學に數學以下十七講座を置かる。講座擔任者左の如し。

教授 菊池 大麓

同 藤澤利喜太郎

同 寺尾 壽

數學第一講座  
應用數學講座兼擔

數學第二講座

星學第一講座

同 第二講座

物理學第一講座

同 第二講座

化學第一講座

同 第二講座

動物學第一講座

同 第二講座

植物學講座

地質學古生物學礦物學第一講座

同 第二講座

同 第三講座

地震學講座

地震學講座分擔

人類學講座

教授 山川健次郎

同 田中館愛橘

同 櫻井 錠二

同 箕作 佳吉

同 飯 島 魁

同 松村 任三

同 小藤文次郎

同 横山又次郎

助教授 菊池 安

教授 關谷 清景

講師 大森 房吉

教授 坪井正五郎



九月九日學習院教授兼理科大學助教三輪桓一郎の兼任を解き、十一日鶴田賢次助教に任じ物理學授業を擔任す。同日助教長岡半太郎非職を命せらる。

明治二十七年二月七日非職地質調査所三等技師兼非職理科大學教授原田豊吉の兼任を免す。二月二日助教菊池安死去せり。十一月二十三日非職北海道技師神保小虎助教に任じ、地質學古生物學礦物學第三講座を擔任す。

明治二十八年五月二十七日平山信教授に任じ星學講座を、九月四日教授關谷清景地震學講座を夫々擔任す。尋いで十一月八日教授關谷清景四月三十日助教大久保三郎何れも非職を命せらる。

明治二十九年一月九日非職教授關谷清景病死せり。五月九日教授田中館愛橘地震學講座分擔を命せられ、七月二十五日助教神保小虎教授に任じ擔任故の如し。九月二十八日長岡半太郎教授に任じ應用數學講座を擔任す。三月十二日助教堺和爲昌非職を命せらる。

猶明治二十六年以降同三十年に至る理科大學各講座擔任者を表示すれば左の如し。明治三十年以後に及ぶものは線を以て示す。

數學第一講座

明治二六、九、九(擔任)

教授 菊池 大籠

數學第二講座

明治二六、九、九(擔任)

教授 藤澤 利喜太郎

應用數學講座

明治二六、九、九(兼擔)

教授 菊池 大籠

同 二九、九、二八(擔任)

教授 長岡 半太郎

星學第一講座

明治二六、九、九(擔任)

教授 寺 尾 壽

星學第二講座

明治二七、一、二、二(擔任)

講師 平 山 信

同 二八、五、二七(擔任)

教授 平 山 信

物理學第一講座

明治二六、九、九(擔任)

教授 山川 健次郎



物理學第二講座

明治二六、九、九(擔任)

教授 田中館愛橘

化學第一講座

明治二六、九、九(擔任)

教授 櫻井錠二

化學第二講座

動物學第一講座

明治二六、九、九(擔任)

教授 箕作佳吉

動物學第二講座

明治二六、九、九(擔任)

教授 飯島魁

植物學講座

明治二六、九、九(擔任)

明治二八、四

教授 松村任三

植物學第一講座 (明治二十八年四月改設)

明治二八、五、二(擔任)

教授 松村任三

植物學第二講座 (明治二十八年增設)

明治二八、五、二七(擔任)

教授 三好學

地質學古生物學鑛物學第一講座

明治二六、九、九(擔任)

教授 小藤文次郎

地質學古生物學鑛物學第二講座

明治二六、九、九(擔任)

教授 横山文次郎

地質學古生物學鑛物學第三講座

明治二六、九、九(擔任)

明治二七、二、三

助教授 菊池安

同 二七、二、一七(擔任)

同 二七、一、九

講師 松島鉦四郎

同 二七、一、二三(擔任)

助教授 神保小虎

地震學講座

明治二六、九、一(擔任)

明治二七、一、二、二八

講師 大森房吉

同 二八、九、四(擔任)

同 二八、一、八

教授 關谷清景

同 二九、五、九(分擔)

教授 田中館愛橘



人類學講座

二六、九、九(擔任)

教授 坪井正五郎

附 簡易講習科

本學の事業は漸次發達し來りたるも理學教育の一般の状態を見るに、未だ普及の域に達せず、爲めに中等學校等に於ける理學に關する學科の擔當者を得るにも苦しむ有様なるを以て、理學教育の普及の急務に應せんが爲め、理科大學に當分の内簡易講習科を置くことと爲し、明治二十二年七月二十七日之を發表せり。簡易講習科は學科を分けて二部と爲し、第一部に在りては數學、物理學及化學を修めしめ、第二部に在りては動物學、植物學及地學を修めしむ。修業年限は二ケ年と爲し、入學者の資格は年齢十八歳以上尋常中學校卒業以上と定めたり。明治二十二年九月第一回生徒募集を爲し、同二十三年、同二十四年に於て第二回及第三回の生徒募集を爲す。各々數十名の生徒を入學せしめたり。最初定められたる簡易講習科規則左の如し。

簡易講習科規則

- 第一 簡易講習科ノ年限ヲ二ケ年トス
- 第二 簡易講習科ノ入學志願者ハ左ノ資格ヲ有スルモノタルヘシ  
年齢 十八歳以上  
品行 方正  
學力 尋常中學校卒業以上ニ當ル者
- 第三 入學志願者ハ下ニ掲クル課目ニ付テ試験ヲ行ヒ成績最優等ナル者ヲ撰舉シ若干名ヲ限リ入學ヲ許ス  
但人員ハ本科ノ都合ニ由リ毎年之ヲ定ム
- 第四 簡易科ヲ二部ニ其第一部ニ於テハ專ラ數學、物理學、化學ヲ修メ第二部ニ於テハ動物學、植物學、地學ヲ修ム各部ノ課程ハ後ニ記スルカ如シ
- 第五 入學受驗料ハ金貳圓トス
- 第六 受業料ハ毎月金貳圓トス
- 第七 定期ノ試験ニ及第シタル者ニハ證書ヲ授ク

入學試験課目

一 國語及漢文



第二篇 大學院及分科大學

一三七二

一英語

一算術、代數、幾何

一物理學、化學大意

第一部課程

第一年

算術

代數

幾何學

三角法

化學講義

同實驗

天文學

第二年

代數

解析幾何

二時

三時

一、二期

二時

三時

一、二期

一時

一回

二時

三時

微積大意  
物理學講義  
同實驗

一、二期

二時

四時

一回

第二部課程

第一年

動物學普通生理

植物學形態學、解剖、生理

地學、地文及地理

天文學

第二年

動物學發生組織等

植物學分類

地學礦物地質

三時

一、二期

四時

三時

一、二期 三時(明治二十一年改む)

四時

三時

四時

第一年及第二年隨意科課目

第六章 理科大學

一三七三



物理學、化學、地震學

明治二十四年十月十三日右規則第六の次に左の一項を加へ、舊第七を第八と爲し、内容に改正を加へたり。

第七 簡易講習科第一年生ノ中試業規則ニ照シ落第ノ處分ニ該當スル者アルトキハ新

ニ入學ヲ志願スル者ト同シク入學試業ヲ受ケシメ其成績入學ヲ許可スベキ人員ノ中

ニ入ルニアラザレハ退學セシム

同二年生ニシテ落第ノ處分ニ該當スル者ハ次學年中仍ホ二年生ニ據置ク可シ

第八 定期ノ試業ニ及第シタル者ニハ其成績ニ依リ之ヲ二等ニ別チテ卒業證書ヲ授與ス

明治二十五年四月二十九日左の一項を追加せり。

第九 休學規程ハ本科ニ適用セス

## 第七章 農科大學

農科大學は本卷第一篇第三章に述べたる如く、明治二十三年六月十二日、農商務省所管東京農林學校を本學に合併し、一分科大學と爲したるものにして、亦分科大學通則を適用し、當初特定の規則なかりしも其の後學科の必要により卒業規則等の設定せらるゝものあるに至れり。

### 第一節 獸醫學科卒業規則及改正

#### 乙科規則及改正 篤志農夫規則

明治二十三年十一月二十六日を以て、獸醫學科卒業規則左の如く定められたり。

#### 獸醫學科卒業規則

第一條 獸醫學科ニ於テハ第三年級ノ學年試業ヲ行ハスシテ第一年第二年第三年ニ履修シタル主眼ノ學科ニ就キ卒業試問ヲ行フ

第二條 主眼ノ學科ハ之ヲ左ノ五大科目ニ分ツ

第一大科目 解剖學、生理學、組織學、病體解剖學

第二大科目 內科學、產科學、藥物學

第三大科目 外科學、眼科學、蹄病論

### 第七章 農科大學



第四大科目 動物疫論、家畜衛生學、獸醫警察法

第五大科目 治療實習、管理實習、蹄鐵實習、調劑實習

第三條 大科目ノ評點數ハ其科目中ノ諸學科目中ノ諸學科ノ點數ヲ平均シタルモノトス

第四條 卒業試問ニ於テ各大科目ノ評點數ハ一百ヲ以テ滿點トス

第五條 卒業評點數ハ第一及第二學年平均評點數ヲ平均シタルモノニ三ヲ乘シ之ニ第三學年諸課目ノ學期評點平均數ト卒業試問平均評點數ニ四ヲ乘シタルモノトヲ加ヘ八ヲ以テ其和ヲ除シテ得タルモノトス

第六條 卒業評點數及卒業試問ノ各大科目ノ評點數各六十點以上ヲ得タル者ハ卒業トス

第七條 卒業評點數六十以上ニシテ卒業試問ニ於テ一大科目六十點未滿五十點以上ノ者ハ原級ニ止ム

第八條 卒業評點數六十點以上ト雖モ卒業試問ニ於テ二大科目以上六十點未滿又ハ一大科目五十點未滿ノモノハ退學セシム

其の後明治二十五年九月九日に右卒業規則に改正を加へられ、卒業試問を行ふ

べき主眼科目及成績評定等に關する規定を改正したり。改正の條文左の如し。

獸醫學科卒業規則

第一條 獸醫學科ニ於テハ第三年級ノ學年試業ヲ行ハス第一年第二年及第三年ニ履修シタル主眼ノ課目ニ就キ卒業試問ヲ行フ

第二條 主眼ノ課目ハ左ノ如シ

第一 解剖學

第二 生理學

第三 藥物學

第四 內科學

第五 外科學

第六 病體解剖學

第七 蹄鐵法實習

第八 家畜病院及往診實習

第三條 卒業試問ニ於テ主眼ノ各課目評點數ハ一百ヲ以テ滿點トス

第四條 卒業評點數ハ第一及第二學年平均評點數ヲ平均シタルモノニ三ヲ乘シ之ニ第



三學年諸課目ノ學期評點平均數ト卒業試問平均點數ニ四ヲ乘シタルモノトヲ加ヘハ  
ヲ以テ其和ヲ除シテ得タルモノトス

第五條 卒業評點數及卒業試問各課目ノ評點數各六十點以上ヲ得タルモノハ卒業トス

第六條 卒業評點數六十點以上ニシテ卒業試問ニ於テ一課目六十點未滿五十點以上ノ  
者ハ原級ニ止ム

第七條 卒業評點數六十點以上ト雖モ卒業試問ニ於テ二課目以上六十點未滿又ハ一課  
目五十點未滿ノモノハ退學セシム

農科大學に於ては他分科大學と事情を異にし、實業者を養成するの必要より、農  
學科、林學科、獸醫學科に各々乙科を置くことと爲し、明治二十三年十一月十四日其  
の規則を定めたり。乙科の修業年限は三ヶ年とし、年齢二十年以上の者にして入  
學試験に合格したる者を入學せしめ、但農學科に在りては田畑五町歩以上所有す  
る者、若くは其の子弟に限ることと定めたり。其の規則及之が改正に關する事項  
は第五節に附載すべし。

第二節 學科編成 豫科

農科大學は明治二十三年六月を以て設置せられたることは前既に述べたるが  
如し。其の學科の如きは舊東京農林學校の制を踏襲し、同年九月十日に至り新に  
課程を制定せり。學科を分けて農學科、林學科及獸醫學科の三學科と爲し、其の修  
業年限は何れも三ヶ年とし、農學科は更に之を第一部及第二部に分ち、第二部は農  
藝化學を主とし、後明治二十六年十一月に至り、農學科より分離して農藝化學科と  
爲さるゝに至れるものなり。明治二十三年新に定められたる學科課程左の如し。

農學科

第一部

第一年

岩石學及地質學	〔第一期〕	每週三時	植物病理學	一年間	每週二時
土壤學	〔第二期〕	同 三時	動物生理學	同	同 二時
氣象學	〔第三期〕	同 二時	昆蟲學及養蠶論	同	同 二時
植物生理學	〔第一期〕	同 四時	肥料論	〔第三期〕	同 四時
	〔第二期〕	同 二時	作物論	一年間	同 五時
	〔第三期〕	同 二時	植物學實驗	同	同 六時
			動物學實驗	同	同 六時
			農場實習	同	同 六時



第二篇 大學院及分科大學

獨逸語 一年間 每週六時

第二年

土地改良論 (第一期) 每週三時

畜產學 (第一期) 同 四時  
(第二期) 同 五時  
(第三期) 同 六時

園藝學 (第一期) 同 四時  
(第二期) 同 三時

農藝物理學 一年間 同 二時  
獸醫學大意 (第一期) 同 三時  
(第二期) 同 三時

バクテリア學(講義及實驗)

理財學 第三期 同 二時  
一年間 同 二時

植物學實驗 同 同 八時

動物學實驗 同 同 八時

農場實習 同 同 八時

獨逸語

第三年

農業經濟論 (第一期) 每週三時

農產製造學及實驗 一年間 同 三時

農業行政 同 同 二時

日本農業論 第三期 同 三時

植物學實驗

農場實習

卒業論文

農學科 第一部

化學原論 一年間 每週三時

岩石學及地質學 (第一期) 同 三時  
(第二期) 同 三時

土壤學 第二期 每週三時  
氣象學 (第一期) 同 二時  
(第二期) 同 二時  
(第三期) 同 二時

第二年

植物生理學 (第一期) 同 四時  
(第二期) 同 四時  
(第三期) 同 四時

動物生理學 一年間 同 二時  
肥料論 第三期 同 四時

作物論 一年間 同 五時

農藝化學實驗 同 同 十時  
獨逸語 同 同 三時

第七章 農科大學

生理化學 (第一期) 每週三時  
農藝物理學 一年間 同 二時  
土地改良論 (第一期) 同 三時  
(第二期) 同 三時

林學科 第一年

森林數學 一年間 每週四時  
地質學及土壤學 同 同 三時  
氣象學 (第一期) 同 三時  
(第二期) 同 三時  
(第三期) 同 二時



第二篇 大學院及分科大學

森林植物學	一年間	每週三時	森林歷史	第二期	每週二時
森林動物學	同	同 三時	理財學	一年間	同 二時
森林測量法	同	同 二時	森林理學實驗	第三期	同 三時
森林植物學實驗	同	同 四時	森林植物學實驗	一年間	同 四時
森林動物學實驗	同	同 四時	實地演習	一年間	同 四時
實地演習	同	同 四時	獨逸語	一年間	同 三時
獨逸語	同	同 三時	財政學	第三期	同 三時
	第二年		森林設制學	第一期	每週三時
森林數學	第一期	每週二時	森林利用學	同	同 三時
森林物理學	第一期	同 二時	森林法律學	同	同 三時
森林土木學	第一期	同 二時	森林統計學	同	同 二時
造林學	一年間	同 二時	森林統計學	同	同 二時
森林設制學	同	同 三時	林政學	同	同 二時
森林副產物製造法	同	同 二時	森林保護論	同	同 三時
森林管理法	同	同 二時	實地演習	第三期	同 三時

卒業論文

第三期

獸醫學科

第一年

解剖學	一年間	每週六時
生理學	同	同 四時
組織學	同	同 四時
胎生學	同	同 三時
病理通論	同	同 二時
外科手術學	同	同 三時
相馬學	同	同 三時
蹄鐵法	同	同 三時
解剖學實習	同	同 三時
組織學實習	同	同 三時
蹄鐵法實習	同	同 三時

第二年

蹄鐵法實習	第三期	同 三時
組織學實習	第三期	同 十時
解剖學實習	第三期	同 十五時

第七章 農科大學

生理學	一年間	每週三時
藥物學	同	同 三時
畜產學	同	同 三時
外科手術學	第一期	同 三時
病理通論	同	同 三時
內科學	同	同 三時
外科學	同	同 三時
病體解剖學	同	同 四時
寄生蟲學	同	同 四時
皮膚病論	同	同 四時
蹄鐵法	同	同 二時
調劑法	同	同 二時
解剖學學習	同	同 六時
外科手術實習	同	同 十五時
蹄鐵法實習	同	同 十五時

第一期

蹄鐵法實習	第一期	同 三時
外科手術實習	第一期	同 三時
解剖學學習	第一期	同 三時
蹄鐵法實習	第一期	同 三時

一三八二

一三八三



第二篇 大學院及分科大學

一三八四

畜病院實習 第三期 每週十七時

獸醫警察法

第三期 每週三時

第三年

裁判獸醫學

同 同 三時

病體解剖學 第一期 每週三時

病體解剖學實習

第一期 同 六時

動物疫論 一年間 同 二時

病體組織學實習

第一期 同 二時

動物產科學 第一期 同 三時

臨床講義

第一期 同 十時

眼科學 同 一時

畜產院及往診實習

同 同 十七時

明治二十五年九月九日に至り農學科、林學科及獸醫學科全般に涉り科目課程の改正を行へり。改正の結果左の如し。

農科大學學科課程

第三 獸醫學科

本學ニ左ノ三學科ヲ設ケ修業ノ年限ヲ各

農學科

三年トス

第一部

但農學科ハ第一第二ノ二部ニ分ツ

第一年

第一 農學科

岩石學及地質學

第一期 每週三時

第二 林學科

土壤學

第二期 同 三時

氣象學	植物生理學	植物生理學	植物病理學	動物生理學	昆蟲學	農具	肥料	農藝物理學	理財學	植物學實驗	動物學實驗	農場實習	獨逸語
第三期	第一期	第二期	第一期	一年間	同	第三期	同	一年間	同	同	同	同	同
每週二時	同 八時	同 四時	同 四時	同 三時	同 二時	同 二時	同 四時	同 二時	同 二時	同	同	同	同 三時
土地改良論	普通作物	特用作物	牧草及牧場	園藝學	養蠶論	家畜飼養論	畜產學	植物學實驗	動物學實驗	農場實習	獨逸語	農產製造學	獸意學大意
第一期	一年間	同	第三期	第一期	第二期	第一期	第三期	一年間	同	同	同	同	同
每週四時	同 三時	同 三時	同 二時	同 三時	同 四時	同 二時	同 三時	同 四時	同	同	同	同	同

第二年

第三年

第七章 農科大學

一三八五



第二篇 大學院及分科大學

林學大意(隨意)	第一期	每週三時	植物生理學	第一期	每週八時
養魚論(隨意)	第一期	同	動物生理學	一年間	同
農業經濟	第一期	同	肥料	第三期	同
農政學	第一期	同	農藝化學實驗	一年間	同
植物學實驗	同	同	獨逸語	同	同
動物學實驗	同	同	生理化學	第一期	每週三時
農場實習	同	同	土地改良論	同	同
卒業論文	第三期	同	普通作物	一年間	同
農學科			特用作物	同	同
第一部			家畜飼養論	同	同
第一年			食物及嗜好品	第三期	同
化學原論	一年間	每週三時	養蠶論	第一期	同
岩石學地質學	第一期	同	農藝物理學	一年間	同
土壤學	第二期	同	農藝化學實驗	同	同
氣象學	第三期	同			

一三八六

獨逸語 一年間 每週三時

森林動物學實驗 第三期

實地演習 一年間

農產製造學 一年間 每週三時  
 農業經濟 一年間 同  
 農藝化學實驗 一年間 同

獨逸語 第二期  
 森林數學 第一期  
 造林學 一年間

森林動物學實驗 第一期 每週二時  
 實地演習 一年間 每週三時

林學科 第一年

氣象學 第二期 每週二時  
 地質學及土壤學 一年間 同  
 森林數學 同 同  
 森林植物學 同 同  
 森林動物學 同 同  
 森林測量 同 同  
 森林植物學實驗 第三期

森林道路 第三期  
 森林利用學 一年間  
 森林歷史 第一期  
 森林保護論 第二期  
 森林設制學 第三期  
 理財學 一年間  
 農學大意 第二期

森林動物學實驗 第一期 每週二時  
 實地演習 一年間 每週三時

第七章 農科大學

一三八七



第二篇 大學院及分科大學

一三八八

森林植物學實驗	一年間		獸醫學科	
森林動物學實驗	第一期		第一年	
林產製造學實驗	第二期		解剖學	一年間 每週六時
實地演習	一年間		生理學	一年間 同 六時
獨逸語	同	每週三時	組織學	同 同 三時
第三年			畜產學	同 同 三時
森林管理法	第二期	每週二時	病理通論	第一期 同 三時
森林利用學	同	同 三時	外科手術學	第一期 同 三時
森林設制學	同	同 二時	蹄鐵法	第一期 同 三時
林政學	同	同 三時	解剖學實習	第二期 同 三時
森林法律學	同	同 二時	組織學實習	第三期 同 十五時
財政學	同	同 三時	蹄鐵法實習	同 同 四時
養魚論	同	同 二時	生理學	第二年
實地演習	一年間		藥物學	第一期 每週四時
卒業論文	第三期			一年間 同 三時

外科手術學	第一期	每週三時	病體解剖學	第一期	每週三時
病理通論	同	同 三時	動物疫論	一年間	同 二時
外科學	一年間	同 四時	產科學	第一期	同 三時
內科學	同	同 四時	眼科學	同	同 一時
病體解剖學	第二期	同 三時	衛生學	一年間	同 三時
寄生動物學	同	同 二時	胎生學	第一期	同 二時
皮膚病論	同	同 一時	家畜外貌學	同	同 三時
蹄鐵論	同	同 二時	獸醫警察法	第三期	同 三時
調劑法實習	第三期	同 六時	法醫學	同	同 三時
解剖學實習	第二期	同 十五時	乳汁檢查法及實驗	第一期	同 四時
外科手術實習	同	同 三時	病體解剖學實習	第一期	同 六時
蹄鐵法實習	第一期	同 四時	病體組織學及微菌實驗	第二期	同 三時
畜病院實習及內外科診斷法	第三期	同 十七時	畜病院及往診實習	一年間	同 十七時
第三年					



明治二十六年十一月三十日農學科第二部を獨立の一學科と爲し、之を農藝化學科と稱することゝ爲せり。此に於て農科大學の學科は農學科、農藝化學科、林學科及獸醫學科の四學科となれり。農藝化學科の科目課程は舊農學科第二部の課程を踏襲し、唯第二年「特用作物」の次に「醱酵化學第二期每週四時」の一科目を加へたるに過ぎず。右改正と同時に農學科及林學科各第一年及第二年の科目中より獨逸語を刪除せり。

明治二十八年九月十七日に至り、又科目課程の改正を行へり。農學科に於ては第二年、第三年の科目中、普通作物、特用作物、收草及牧場の三科目を合併して作物と爲し、農藝化學科第二年の科目中、普通作物、特用作物を合併して作物と爲し、農學科及林學科各第二年の課程に法學通論を加へたる等の改正を行ひたるも、今一々之を舉げず。

明治二十三年七月文部大臣より農科大學設置に關し諮詢せられたる際、本學評議會が反對を表明せることは、本卷第一篇第三章に述べたるが如し。反對の理由の一は舊東京農林學校の農科大學生の程度が帝國大學分科大學の其れに比して

低くきにあり。即ち舊東京農林學校は特別な豫科を有したるものなるが、今農科大學と成りたるに就き、當時在學の學生の處置を講せざるべからず。本科生徒は之を文部大臣諮詢案の如く、特別學生として取扱ふこととするも、豫科生徒をも同じく特別生徒と爲すことを得ず。此に於て舊東京農林學校豫科生の爲めに特に農科大學に豫科を設け、該生徒卒業と共に之を廢することと爲し、以て其の救済の法とせり。右豫科に關する規定左の如し。

## 豫科

本學豫科ハ舊東京農林學校豫科生徒ノ爲ニ設ケタルモノナレハ今後更ニ之ヲ募集スルコトナク又此生徒悉ク卒業スレハ之ヲ廢ス

豫科ノ學年、學期、休業、在學、退學、休業、試業ニ關スル規程ハ分科大學通則ニ準據ス

科目ノ下ニ(農)(林)(獸)トアルハ農學科、林學科、獸醫學科各志望ノ生徒ノミニ課スル學科トス

舊東京農林學校豫科第一年級ヲ卒ヘタル生徒ニハ三年間左ノ學科ヲ課ス

## 第二年



倫理	一年間	每週一時	數學解析幾何	一年間	每週三時
國語	同	同 二時	動植物學(獸)	同	同 四時
漢文	同	同 三時	地質及礦物學	同	同 二時
英語	同	同 六時	物理學	同	同 四時
地理及地文	同	同 三時	化學無機	同	同 二時
支那歷史	同	同 二時	天文(農,林)	同	同 一時
日本歷史	同	同 二時	圖畫	同	同 三時
萬國歷史	同	同 二時	測量(農,林)	同	同 三時
數學三角法	同	同 三時	兵式體操	同	同 三時
生理學	同	同 二時	英語	一年間	每週四時
物理學	同	同 二時	獨逸語	同	同 五時
兵式體操	同	同 三時	羅甸語(獸)	同	同 二時
英語	一年間	每週四時	數學解析幾何微積分(林)	同	同 三時
獨逸語	同	同 五時	動植物學(農,林)	同	同 四時

第三年

第四年

解剖學(獸)	一年間	每週六時	羅甸語(獸)	一年間	每週二時
物理學實驗	同	同 三時	地理及地文	同	同 三時
化學有機及實驗(農,獸)	同	同 七時	支那歷史	同	同 二時
法學通論(農,林)	同	同 四時	日本歷史	同	同 二時
力學(農,林)	同	同 二時	數學三角,解析幾何	同	同 四時
測量(農,林)	同	同 三時	生理學	同	同 二時
兵式體操	同	同 三時	測量(農,林)	同	同 三時
同上第二年級ヲ卒ヘタル生徒ニハ二年間	同	同 三時	體操	同	同 三時
左ノ學科ヲ課ス	同	同 三時	英語	一年間	每週五時
倫理	一年間	每週一時	獨逸語	同	同 二時
國語	同	同 二時	萬國歷史	同	同 二時
漢文	同	同 二時	數學解析幾何,微分,積分(林)	同	同 三時
英語	同	同 五時	動植物學	同	同 三時
獨逸語	同	同 三時	地質學	同	同 一時

第三年

第四年



第二篇 大學院及分科大學

一三九四

物理學實驗	一年間	每週三時	國語	一年間	每週二時
化學有機及實驗(農、獸、林)	同	同 七時	漢文	同	同 二時
法學通論	同	同 二時	英語	同	同 五時
力學(農、林)	同	同 二時	獨逸語	同	同 四時
解剖學(獸)	同	同 六時	地理及地文	同	同 三時
測量(農、林)	同	同 三時	支那歷史	同	同 二時
體操	同	同 三時	日本歷史	同	同 二時
同上第三年級ヲ卒ヘタル生徒ニハ一年間			萬國歷史	同	同 二時
左ノ學科ヲ課ス			數學三角、解析幾何	同	同 四時
倫理	一年間	每週一時	生理學	同	同 二時
			兵式體操	同	同 三時

第三節 講座

明治二十六年九月勅令第九十三號を以て、帝國大學に講座を設置せられたることは、本卷第一篇第四章に述べたる如くなるが、今其中農科大學に屬する講座を

擧ぐれば左の如し。

農學	二講座
農藝化學、化學	二講座
林學	三講座
植物學	一講座
動物學、昆蟲學、養蠶學	二講座
園藝學	一講座
畜産學	一講座
地質學、土壤學	一講座
農林物理學、氣象學	一講座
農政學、經濟學	一講座
家畜解剖學	一講座
家畜生理學	一講座
家畜內科學、家畜外科學	三講座

計二十講座

一三九五



第四節 教職員の異動

農科大學設置の初めに於て教授松井直吉學長に任じ、其の他教職員は舊東京農林學校時代の人々を任用せり。其の氏名左の如し。

教授及教師

家畜外科學

ヨハネス・ルードウィヒ・ヤンソン

農藝化學

オスカル・ケルネル

農學

マキス・フエスカ

林學

オイスタツハ・グラスマン

森林植物學

ハインリヒ・マイエル

化學

松井直吉

林學

松野 潤

物理學

北尾次郎

動物學

石井千代松

林學

志賀泰山

助教授

家畜内科學、病理學

與倉 東隆

昆蟲學

佐々木忠二郎

農學

玉利喜造

化學

守屋物四郎

地質學

西松二郎

農學

酒匂常明

病理學

勝島仙之助

植物學

白井光太郎

解剖學、組織學

田中 宏

林學

和田國次郎

生理學

時重初熊

農藝化學

古在由直

林學

中川 鈿次郎

農學

岡田真一郎



農學

本田 幸介

藥物學

津野慶太郎

數學、物理學

多々羅 恕平

農藝化學

森 要太郎

林學

田町與三郎

農藝化學

長岡 宗好

經濟學、農業行政

松崎藏之助

講師

英語

ウキリヤム・ダグラス・コックス

獨逸語

ヨハンネス・ボルヤン

測量

小林 柏次郎

園藝學

福 羽 逸人

植物學

池野成一郎

備教員

蹄鐵術

アルベルト・ミュラー

國語、日本歴史

平田 盛胤

獨逸語

小島 録太郎

農學

針 谷 吾作

倫理、漢文、支那歴史

齋 藤 木

體操

増 田 鉞藏

囑託教員

獨逸語

向 軍 治

英語

齋 藤 祥三郎

明治二十三年以降教職員異動の主要なるものを舉ぐれば、左の如し。

同年十一月一日農學士横井時敬に本學年農學講義を囑託す。

同月四日農藝化學教師ドクトル・オスカ・ケルネル、同月十一日林學教師ドクトル・オイスタツ・ハ・グラスマン及農學教師ドクトル・マキス・フエスカの雇期を何れ

も向三ヶ年間延期繼續す。



明治二十四年四月十三日助教佐々木忠二郎、同酒匂常明、同玉利喜造何れも教授に任ず。八月十六日助教獸醫學士勝島仙之介教授に任じ、病理通論内科學内科臨床講義を擔任し、同月二十四日農科大學教授兼理科大學教授北尾次郎非職を命せらる。

六月十三日獸醫學士今井吉平助教に任じ蹄鐵法蹄鐵論を擔任す。七月二十日札幌農學校教授獸醫學士須藤義衛門助教に任じ、外科學產科學外科臨床講義を擔任す。九月二十五日理學士池野成一郎の囑託を解き、助教に任じ植物學を擔任し、同月二十八日農商務屬磯山廣居、林務官補柴田榮吉何れも助教に任じ林學を擔任す。六月十三日助教本田幸介依願免官となり、三月三十一日助教與倉東隆非職を命せらる。

八月十五日農科大學助手池田作次郎の職を解き、更に同學動物學授業を囑託し、同山岡成章に圖畫授業を囑託す。九月十一日農學士横井時敬に本學年第一期中農業學授業を囑託し、同月十二日理學士大森俊次に本學年中數學及測量を、齋藤祥三郎に英語授業を、向軍次に獨逸語授業を囑託す。

八月十六日帝國大學書記官兼農科大學舍監土屋政朝農科大學舍監兼帝國大學書記官に任ず。

此の年二月二十八日獨逸人ハイニンリツヒマイエル滿期解職となり、十月二十二日獸醫學教師獨逸人ヨハネス・ルドウイヒ・ヤンソンの雇期を明年十月二十一日まで延期繼續す。四月一日獨逸語講師獨逸人ヨハンネス・ボルヤン滿期に就き、猶二十八日より七月十日まで囑託を繼續し、七月一日英語講師英國人ウキリヤム・ダグラス・コックスの囑託を明年六月三十日まで繼續す。

明治二十五年十月三日農商務省技手田中節三郎助教に任じ農學を擔任す。三月三十一日大學院學生文學士磯田良に本學年中萬國歴史授業を囑託す。五月十一日大學院學生林學士河合鉢太郎に本學年中森林利用學及測量授業を囑託す。六月十三日獸醫學士秋山直三に家畜管理實習授業及其管理を囑託す。八月十日林學士河合鉢太郎に來學年中講師を囑託し、齋藤祥三郎に英語、向軍治に獨逸語授業を囑託す。同月十四日理學士澤田吾一に數學講師を囑託し、尋いで解職となる。同月二十日齊藤金平に解剖學授業を囑託す。



此の年十一月十五日、獨乙人マツクス・フェスカ十二月三十一日獨乙人オスカル・ケルネル何れも満期解職となる。

明治二十六年九月九日農商務技師兼農科大學教授志賀泰山教授を免せらる。九月十一日教授理學博士松井直吉學長に補せらる。

此の年九月十一日日本學に講座を置かれ、農科大學には農學第一講座外十九講座を設けらる。今其の擔任者を擧ぐれば左の如し。

- 農學第一講座 講師 横井 時 敬
- 同 第二講座 講師 森 要太郎
- 農藝化學第一講座 教授 松井 直吉
- 同 第二講座 講師 志賀 泰山
- 林學第一講座 助教 本多 靜六
- 同 第二講座 助教 白井光太郎
- 同 第三講座 助教 白井光太郎
- 植物學講座

- 動物學昆蟲學養蠶學第一講座 教授 石川千代松
- 同 第二講座 教授 佐々木忠二郎
- 園藝學講座 教授 玉利喜造
- 畜産學講座 講師 福羽逸人
- 地質學土壤學講座 教授 玉利喜造
- 農林物理學氣象學講座 講師 脇水鐵五郎
- 農政學經濟學講座 教授 北尾次郎
- 家畜解剖學講座 講師 井上辰九郎
- 家畜生理學講座 助教 田中 宏
- 家畜內科學家畜外科學第一講座 助教 時重初熊
- 同 第二講座 教授 勝島仙之助
- 同 第三講座 教授 須藤義衛門

九月十一日齊藤萬吉助教授に任じ、農學を擔任し、同日助教授松崎藏之助、岡田



眞一郎、同森要太郎何れも非職を命せらる。一月十四日豊永眞里に農藝化學講師を、同月十四日農商務技師試補伊地知徳之助に本學年中講師を、九月十日池田作次郎に動物學講師を夫々囑託し、九月二十一日大森俊次、齊藤祥三郎、向軍治、松本慶次郎に、九月三十日水島久太郎に何れも二十七年三月三十一日まで豫科講師を囑託し、九月二十一日河合銆太郎に林學科乙科講師を囑託す。七月四日大森雄也、九月十日山岡成章何れも講師囑託を解かる。

五月二十三日獨乙人アルベルト・ミュラーを二十七年七月十日まで、六月三十日英國人ウキリヤム・ダグラス・コックスを本年七月一日より二十七年六月三十日まで、何れも囑託を延期せり。此の年十月二十二日獨乙人ヨハネス・ルドウキヒヤンソンの雇期を明治二十九年七月十日まで、十一月十一日獨乙人オイスタツハグラスマンの雇期を明治二十八年七月三十一日まで何れも延期繼續す。

明治二十七年九月三日講師河合銆太郎助教授に任じ林學を擔任す。一月十七日農事試験場技師渡邊朔に講師を囑託し、農學第二講座に屬する職務を分擔せしむ。七月四日非職助教授森要太郎の講師囑託を解く。

此年七月十日雇教員アルベルト・ミュラー満期解雇となる。

明治二十八年八月六日林學士川瀬善太郎教授に任じ林學第三講座を擔任す。六月三日非職林務官補右田半四郎教授に任じ林學を擔任す。十月一日助教授豊永眞里、同田中節三郎農學第二講座分擔を命せらる。三月十九日助教授古在由直非職を命せられ、同月二十九日助教授柴田榮吉依願免官となる。四月二十日橋本平之助に向三ヶ月間養蠶實習補助を囑託す。七月十九日農事試験場技師渡邊朔の講師囑託を解く。

此の年七月十二日獨逸人オイスタツハグラスマン満期歸國せり。

明治二十九年二月四日農學士本田幸介教授に任じ、畜産學講座擔任を命せらる。七月二十五日非職助教授松崎藏之助教授に任じ、農政學經濟學講座擔任を命せらる。七月二日助教授守屋物四郎東京工業學校教授兼農科大學助教授に任じ化學を擔任し、同月二十五日理學士脇水鐵五郎助教授に任じ、地質學土壤學講座擔任を命せらる。一月十一日御料局技師福羽逸人の講師囑託を解く。九月二十一日教授勝島仙之介に獸醫學科乙科主任を命じ、同川瀬善太郎に林學科主任を命じ、助教



授齊藤萬吉に農學科乙科主任を命ず。

此の年七月十一日獨逸人ヨハネス・ルードウイツヒ・ヤンソン同オスカル・ロイブの雇を繼ぐ。

猶明治二十六年以降同三十年に至る本分科大學各講座擔任者を表示すれば左の如し。明治三十年以後に及ぶものは線を以て示す。

農學第一講座

明治二六、九、一六(擔任)	明治二七、七、二一	講師	横井時敬
同 二七、七、二一(擔任)		教部	横井時敬

農學第二講座

明治二六、九、二二(分擔)	明治二七、一、二七	講師	森 要太郎
同 二七、一、二七(分擔)	同 二八、七、一九	講師	渡邊 朔
同 二八、一〇、二(分擔)		助教授	豊永 眞里
同 二八、一〇、二(分擔)		助教授	田中節三郎

農藝化學、化學第一講座

明治二六、九、九(擔任)		教授	松井直吉
--------------	--	----	------

農藝化學、化學第二講座

明治二六、九、二二(擔任)		講師	志賀泰山
---------------	--	----	------

林學第一講座

明治二六、九、九(擔任)		助教授	本多 靜六
--------------	--	-----	-------

林學第二講座

明治二八、八、六(擔任)		教授	川瀬善太郎
--------------	--	----	-------

植物學講座

明治二六、九、九(擔任)		助教授	白井光太郎
--------------	--	-----	-------

動物學昆蟲學養蠶學第一講座

動物學昆蟲學養蠶學第二講座



明治二六、九、九(擔任)

教授 佐々木忠二郎

園藝學講座

明治二六、一、九(分擔)

明治二九、二、四

教授 玉利喜造

同 二六、九、一九(分擔)

同 二九、一、二一

講師 福羽逸人

同 二九、二、四(擔任)

教授 玉利喜造

畜産學講座

明治二六、九、九(擔任)

明治二九、二、四

教授 玉利喜造

同 二九、二、四(擔任)

教授 本田幸介

地質學土壤學講座

明治二六、九、一六(擔任)

明治二九、七、二五

講師 脇水鐵五郎

同 二九、七、二五(擔任)

助教授 脇水鐵五郎

農林物理學氣象學講座

明治二六、九、九(擔任)

教授 北尾次郎

農政學經濟學講座

園藝學講座

明治二六、一、九(分擔)

明治二九、二、四

教授 玉利喜造

同 二六、九、一九(分擔)

同 二九、一、二一

講師 福羽逸人

同 二九、二、四(擔任)

教授 玉利喜造

畜産學講座

明治二六、九、九(擔任)

明治二九、二、四

教授 玉利喜造

同 二九、二、四(擔任)

教授 本田幸介

地質學土壤學講座

明治二六、九、一六(擔任)

明治二九、七、二五

講師 脇水鐵五郎

同 二九、七、二五(擔任)

助教授 脇水鐵五郎

農林物理學氣象學講座

明治二六、九、九(擔任)

教授 北尾次郎

農政學經濟學講座

明治二六、九、一六(擔任)

明治二九、七、二五

講師 井上辰九郎

同 二九年七、二五(擔任)

教授 松崎藏之助

家畜解剖學講座

明治二六、九、九(擔任)

助教授 田中宏

家畜生理學講座

明治二六、九、九(擔任)

助教授 時重初熊

家畜內科學家畜外科學第一講座

明治二六、九、九(擔任)

教授 勝島仙之介

家畜內科學家畜外科學第二講座

明治二六、九、九(擔任)

教授 須藤義衛門

家畜內科學家畜外科學第三講座

第五節 農學科林學科獸醫學科乙科規則 篤志農夫規則

農科大學農學科林學科獸醫學科乙科規則(第一節參照)

第一條 農科大學ニ於テハ實業者ヲ養成スルタメ農學科林學科獸醫學科乙科ヲ置ク



第二條 修業ノ年限ハ各三年トシ一學年ヲ以テ一學級トス  
第三條 學科課程ハ左ノ如シ

農學科乙科學科課程

第一年

物理學	〔夏〕冬期	每週	三時	昆蟲學及養蠶論	夏期	每週	三時
化學	同	同	四時	家畜蕃殖飼養論	同	同	三時
植物學及病理學	夏期	同	三時	普通作物論	冬期	同	四時
土壤及土地改良論	冬期	同	三時	園藝論	同	同	四時
肥料論	同	同	二時	農場實習	〔夏〕冬期	同	四時
農具論	同	同	一時	家畜蕃殖飼養論	冬期	每週	四時
農場實習	〔夏〕冬期	同	一時	工藝作物論	同	同	三時
化學	冬期	每週	二時	農產製造論	同	同	二時
植物學及病理學	〔夏〕冬期	同	二時	牧草論	同	同	一時
動物學	冬期	同	三時	森林學	同	同	三時
				獸醫學大意	夏期	同	三時
				農業經濟論	同	同	三時

農場實習

〔夏〕冬期

每週三時

林學科乙科學科課程

第一年級

代數學	〔第〕第一期	每週	四時	物理學	第一期	每週	三時
幾何學	同	同	四時	土壤學	〔第〕第二期	同	三時
三角術	第三期	同	四時	測量	一年間	同	六時
物理學	〔第〕第三期	同	三時	農學通論	同	同	二時
化學	一年間	同	三時	測樹學	〔第〕第二期	同	三時
地質學	第三期	同	三時	造林學	一年間	同	二時
動物學	一年間	同	三時	森林利用學	〔第〕第三期	同	四時
植物學	同	同	四時	森林設置學	一年間	同	五時
測量	同	同	四時	林產物製造法	同	同	四時
圖畫	〔第〕第一期	同	四時	栽培實驗	同	同	四時
栽培實驗	〔第〕第二期	同	四時	實地演習	同	同	四時

第七章 農科大學

第二年級

第三年級



森林保護學	〔第一期〕 每週四時	蹄鐵法及蹄病論	〔第一期〕 每週二時
現行森林法規	同 二時	蹄鐵法實習	一年間 同 六時
測量	同 三時	外科手術實習	第二期 同 三時
栽培實驗	同 四時	病理學	一年間 同 四時
實地演習	第三期	外科學	同 同 三時
獸醫學科乙科學科課程		動物疫論並獸醫警察法	〔第三期〕 同 三時
第一年級		寄生蟲學	同 同 三時
化學	一年間 每週三時	家畜管理實習	〔第一期〕 每週六時
解剖學及組織學	同 同 五時	病院實習	〔第二期〕 同 十五時
生理學	同 同 四時	第三年級	
藥物學及調劑法	同 同 三時	蹄鐵法實習	一年間 每週六時
蹄鐵法及蹄病論	〔第三期〕 同 三時	畜產學	同 同 三時
外科手術學	〔第二期〕 同 三時	動物疫論並獸醫警察法	〔第一期〕 同 二時
家畜管理實習	一年間 同 六時	屍體剖檢法	〔第二期〕 同 三時
第二年級		產科學	一年間 同 二時

眼科學 第三期 每週二時 病院實習 一年間每週十五時  
 相馬學 〔第三期〕 同 三時 臨床講義 同 同 六時

第四條 農學科ノ學期ハ冬夏ノ二學期ニ分チ冬學期ハ九月十一日ヨリ翌年二月二十日ニ至リ夏學期ハ二月廿一日ヨリ七月十日ニ至ル

第五條 農學科ノ生徒ハ夏期休業中實習ヲ爲サシメ又其第三年級卒業ノ期ハ九月上旬トス

第六條 農學科生徒ニハ春期休業ナサシメス其冬期休業ハ十二月二十五日ヨリ翌年二月二十日マテトス

第七條 應募者ハ品行方正身體強健ニシテ年齡二十歲以上ノ者トス農學科ニ於テハ田畠五町歩以上所有スル者若クハ其子弟ニ限ル

第八條 入學試験ノ期ハ每學年ノ終トス  
 第九條 各學科第一年級ニ入學セント欲スル者ニハ左ノ課目ニ據リ試験ヲ行フ

- 一 漢文講讀
- 二 漢字交リ作文
- 三 國語書取

- 四 日本地圖
- 五 算術



第十條 入學受験料ハ金貳圓トシ授業料ハ毎月金貳圓トス

第十一條 農學科及獸醫學科ニ於テハ第三學年ノ終ニ於テ既ニ履修シタル諸課目ノ内主眼ノモノニ就キ卒業試問ヲ行フ

但獸醫學科ニ於テハ第三學年ノ學年式業ヲ行ハス

第十二條 農學科及獸醫學科ノ學期評點數ハ課目平均點數ト實習ノ平均點數トヲ併セ

テニテ以テ其和ヲ除シテ得タルモノトス

第十三條 農學科ノ卒業評點數ハ三學年評點ノ平均數ニ二ヲ乘シ之ニ卒業試問評點數

ヲ加ヘ三ヲ以テ其和ヲ除シテ得タルモノトス

第十四條 獸醫學科乙科ノ卒業試問並ニ卒業ニ關スル事項ハ獸醫學科卒業規則ニ依ル

第十五條 前諸條ノ外ハ分科大學通則ニ據ル

尋いで明治二十五年九月九日右乙科規則全般に涉り改正を加へたり。改正規則左の如し。

農科大學農學科林學科獸醫學科乙科規則

第一條 農科大學ニ於テハ實業者ヲ養成スル爲メ農學科林學科獸醫學科ノ乙科ヲ置ク

第二條 修業ノ年限ハ各三年トシ一學年ヲ以テ一學級トス

第三條 學科課程ハ左ノ如シ

農學科乙科學科課程

第一年

物理學	〔第一期〕	每週五時	植物病理學	〔第一期〕	每週二時
化學	同	同 四時	昆蟲學	第一期	同 二時
植物學	第二期	同 三時	普通作物	〔第一期〕	同 三時
動物學	〔第一期〕	同 二時	牧草及牧場	第二期	同 二時
土壤學	第一期	同 二時	園藝學	第一期	同 四時
土壤改良論	第二期	同 二時	養蠶論	第二期	同 二時
農具	第一期	同 二時	畜產學	第二期	同 三時
肥料	第二期	同 二時	農場實習	一年間	
農場實習	一年間		特用作物	第三期	第一期
			畜產學		每週四時
			農產製造學	同	同 四時
			農業經濟	〔第一期〕	同 二時
化學	第二期			〔第二期〕	同 二時
	第一期	每週四時			



第二篇 大學院及分科大學

獸醫學大意 第二期 每週三時  
 林學大意 第一期 同三時  
 農場實習 一年間

林學科乙科學科課程 第一年

代數學 第一期 每週四時  
 幾何學 同 同四時  
 三角術 同 同三時  
 物理學 第一期 同四時  
 氣象學 第二期 同三時  
 化學 一年間 同三時  
 動物學 同 同三時  
 植物學 同 同四時  
 礦物學及地質學 第一期 同三時  
 測量 第二期 同三時

圖畫

第二年

土壤學 第一期 每週二時  
 農學大意 一年間 同二時  
 森林數學 第一期 同三時  
 造林學 一年間 同二時  
 林產製造學 同 同二時  
 森林利用學 第三期 同四時  
 森林設制學 第三期 同二時  
 測量 一年間 同三時  
 測量實習 同 同三時  
 林產製造學實習 同 同三時  
 實地演習 同 同三時

造林學 第一期 每週三時  
 森林利用學 第一期 同五時  
 森林設制學 同 同四時  
 森林保護學 同 同三時  
 林政學 同 同四時  
 現行法規 同 同二時  
 造林實習 同 同四時  
 實地演習 第三期 同四時

獸醫學科乙科學科課程 第一年

化學 一年間 每週三時  
 解剖學及組織學 同 同五時  
 生理學 第一期 同四時  
 藥物學及調劑法 第二期 同三時  
 畜產學 第三期 同三時

第二年

蹄鐵法及蹄病論 第一期 每週三時  
 外科手術學 第二期 同三時  
 解剖學實習 第二期 同十時  
 蹄鐵法實習 第三期 同六時  
 病理學 一年間 每週四時  
 外科學 同 同四時  
 動物疫論及獸醫警察法 第三期 同三時  
 家畜外貌學 第一期 同三時  
 寄生動物學 第一期 同三時  
 畜產學 一年間 同三時  
 屍體剖檢法 第三期 同二時  
 解剖學實習 第一期 同三時  
 蹄鐵法實習 一年間 同六時  
 外科手術實習 第二期 同三時

第七章 農科大學



第二篇 大學院及分科大學

一四一八

畜病院實習 (第二期) 每週十五時

眼科學 (第二期) 每週二時

調劑法實習 (第一期) 同 三時

屍體剖檢法 (第一期) 同 三時

第三年

蹄鐵法實習 同 六時

動物疫論及獸醫警察法(第二期) 每週二時

畜病院實習及往診實習 同 十五時

產科學 同 三時

家畜管理實習 (第三期) 同三十六時

第四條 農學科ノ學年ハ九月十一日ヨリ翌年九月十日迄トシ之ヲ三學期ニ分チ第一學

期ハ九月十一日ヨリ十二月十五日ニ至リ第二學期ハ一月八日ヨリ四月二十五日ニ至

リ第三學期ハ四月二十六日ヨリ九月十日ニ至ル

第五條 農學科ノ第三學期中ハ専ラ農場實習爲サシム

第六條 農學科生徒ニハ春期休業ヲ爲サシメス其冬期休業ハ十二月十六日ヨリ翌年一

月七日マデトス

但第二年級生徒ニハ第三學年ノ終リニ於テ休業セシムルコトアルヘシ

第七條 入學志願者ハ品行方正身體強健ニシテ年齡滿十九年以上ノ者トス農學科ニ於

テハ田畠五町歩以上ヲ所有スル者若クハ其子弟ニ限ル

前項規定ノ田畠ヲ所有セサル者ト雖モ府縣郡市町村等ノ給費又ハ貸費ヲ受ケ卒業ノ後其示命セラレタル職務ニ従事スルノ誓約ヲナシ當該府縣知事郡市町村長ノ證明ヲ得テ入學試験ヲ請フモノアルトキハ特ニ之ヲ許可スルコトアルヘシ

第八條 入學試験ノ期ハ毎年六月トス

但農學科ノ及第者ハ假ニ入學セシメテ直ニ實習ニ就カシメ實業ノ體質及意向ノ適否ヲ檢シ合格者ハ九月十一日ヨリ本入學ヲ許ス

第九條 各學科第一年級ニ入學セント欲スル者ニハ左ノ課目ニ據リ試験ヲ行フ

一 漢文講讀

二 作文(漢文交リ文)

三 國語書取

四 日本地理

五 算術

六 代數學(二次方程式マテ)林學科志望ノ者ノミニ課ス

第十條 入學受験料ハ金二圓トシ授業料ハ一學年金二十圓トス

第十一條 農學科及獸醫學科ニ於テハ第三學年ノ終リニ於テ既ニ履修シタル諸課目ノ



中主眼ノモノニ就キ卒業試問ヲ行フ

但獸醫學科ニ於テハ第三學年ノ學年試業ヲ行ハス

第十二條 農學科ノ學年評點數ハ課目平均點數ト實習ノ平均點數トヲ併セニテ其和ヲ除シテ得タルモノトス

第十三條 農學科ノ卒業評點數ハ三學年評點ノ平均數ニ二ヲ乘シ之ニ卒業試問評點數ヲ加ヘ三ヲ以テ其和ヲ除シ得タルモノトス

第十四條 獸醫學科乙科ノ卒業試問並ニ卒業ニ關スル事項ハ獸醫學科卒業規則ニ依ル但該規則第二條ニ掲クル課目中病體解剖學ヲ除キ屍體剖檢法及家畜管理實習ノ二課目ヲ加フ

第十五條 前諸條ノ外ハ分科大學通則ニ據ル

尋いで明治二十八年九月十七日を以テ乙科規則中第三條學科課程及第四條第六條第七條並第十五條に改正を加へたり。此の際入學資格の一たる年齢の制限を滿十七歳に引き上げたり。今改正の條文全部を採録すること左の如し。

第三條 學科課程ハ左ノ如シ

農學科乙科

第一年

物理學	〔第一期〕	每週五時	畜産學	〔第一期〕	每週二時
無機化學	同	同 三時	家畜飼養論	同	同 二時
植物學	第二期	同 三時	農場實習	一年間	
動物學	〔第一期〕	同 二時	作物	〔第一期〕	每週三時
害蟲	同	同 二時	畜産學	同	同 二時
作物	同	同 三時	農産製造學	同	同 三時
農場家習	一年間		農業經濟	同	同 三時
	第二年		獸醫學大意	同	同 二時
有機化學	〔第一期〕	每週二時	林學大意	同	同 二時
土壤學	同	同 二時	農場實習	一年間	
肥料	同	同 二時	林學科乙科		
作物	同	同 三時	第一年		
植物病理學	同	同 二時	代數學	〔第一期〕	每週四時
園藝學	同	同 三時	幾何學	同	同 四時
養蠶論	第二期	同 三時			



三角術	第三期	每週二時	森林數學	第一一年間	每週三時
物理學	第一一年間	同 三時	森林測量	第一一年間	同 三時
氣象學	第三期	同 二時	森林利用學	第三期	同 四時
化學	第一一年間	同 三時	林產製造學	第一第二一年間	同 三時
動物學	同	同 三時	造林學	第一一年間	同 二時
植物學	同	同 三時	森林保護學	同	同 三時
地質學及土壤學	同	同 三時	森林經理學	第三期	同 二時
圖畫	同	同 二時	林政學	同	同 二時
林學通論	第一第二一期	同 二時	森林法律	第一一年間	同 二時
森林測量	第三期	同 三時	經濟學及財政學	同	同 二時
造林學	同	同 二時	農學大意	第一第二一期	同 二時
森林測量實習	同	同 二時	森林測量實習	第一一年間	同 二時
造林學實習	同	同 二時	林產製造學實習	第一第二一年間	同 二時
實地演習	同	同 二時	造林學實習	第一一年間	同 二時
			實地演習	第一一年間	同 二時

第二年

第三年

森林利用學	第一第二一期	每週四時	藥物學及調劑法	第一一年間	每週三時
造林學	同	同 三時	蹄鍍法	第一第二一期	同 三時
森林經理學	同	同 三時	外科手術學	第一第二二期	同 三時
經濟學及財政學	同	同 二時	解剖學實習	第一第二二期	同 三時
林政學	同	同 四時	蹄鍍法實習	第三期	同 六時
狩獵術	同	同 二時			
造林學實習	同		畜產學	第一第二二期	每週三時
森林經理學實習	同		病理學	第一一年間	同 四時
實地演習	第三期		外科學	同	同 四時
			蹄病論	第二二期	同 三時
			動物疫論	第二二期	同 三時
			寄生動物學	第三期	同 三時
			死體剖檢法	第一第二二期	同 二時
			衛生學	第三期	同 二時
			解剖學實習	第一第一期	同 三時
			解剖學	第一第二期	同 十時

第一年

第七章 農科大學



第二篇 大學院及分科大學

一四二四

蹄鉄法實習	一年間 每週六時	家畜外鏡學	〔第一期〕 每週三時
外科手術實習	第二期 同 三時	產科學	同 同 三時
家畜病院實習 及往診實習	〔第三期〕 同 十六時 第一期 同 十五時	眼科學	第二期 同 二時
調劑法實習	第一期 同 三時	蹄鉄法實習	〔第一期〕 同 六時 〔第二期〕 同 六時

第三年

畜産學	〔第一期〕 每週三時 〔第二期〕 同 二時	死體剖檢法實習	同 同 四時
動物疫論	同 同 二時	家畜病院實習 及往診實習	同 同 十五時
獸醫警察法	同 同 二時	家畜管理實習	第三期

第四條 農學科ノ學年ハ九月十一日ヨリ翌年九月十日マテトシ之ヲ三學期ニ分チ第一學期ハ九月十一日ヨリ十二月二十四日ニ至リ第二學期ハ一月八日ヨリ三月三十一日ニ至リ第三學期ハ四月八日ヨリ九月十日ニ至ル

第六條 農學科生徒ニハ第三學期ニ至テ夏季休業ヲ爲サシメス但實習ノ都合ニ依リ三週間以内休業セシムルコトアルヘシ

第七條 入學志願者ハ品行方正身體強健ニシテ年齡滿十七年以上ノ者トス農學科ニ於テハ田畠五町歩以上ヲ所有スル者若クハ其子弟ニ限ル

前項規定ノ田畠ヲ所有セサル者ト雖モ府縣郡市町村等ノ給費又ハ貸費ヲ受ケ卒業ノ後其示命セラレタル職務ニ従事スルノ誓約ヲナシ當該府知事郡市町村長ノ證明ヲ得テ入學試験ヲ請フ者アルトキハ特ニ之ヲ許可スルコトアルヘシ

第十五條 前諸條ノ外ハ分科大學通則ニ據ル  
但休學規程ハ本條ノ限ニアラス

舊東京農林學校に於て、農事の實地に就き修めんと欲する者の爲めに、校内に篤志農夫を置きたるが、農科大學も亦其の事業を繼承し、其の規則の如きも舊東京農林學校時代のものを襲用せり。然るに其の後規則改正の必要を認め、明治二十四年十月二十六日を以て、農科大學篤志農夫規則を左の如く制定せり。

農科大學篤志農夫規則

第一條 本學農場ニ於テ實地ニ就キ農事ヲ修業セント欲スルモノハ條志農夫トシテ之ヲ許ス

第二條 年齡二十歳以上ニシテ身體強健農事ノ服役ニ堪ヘ三年間修業ノ見込アルモノニアラサレハ篤志農夫タルコトヲ許サス



第三條 篤志農夫タラント欲スル者ハ第一號書式ノ願書ヲ差出スヘシ

第四條 篤志農夫ノ許可ヲ得タルモノハ正副保證人ヨリ第二號書式ノ保證書ヲ差出スヘシ

第五條 保證人副保證人ハ丁年以上ノ男子ニシテ東京府内ニ於テ一家計ヲ立ル者又ハ本學ニ於テ適當ト認ムル者ニ限ル

第六條 但保證人又ハ副保證人旅行セントスルトキハ豫メ相當ノ代理者ヲ立テ届出ツヘシ本學ニ於テ正副保證人又ハ其代理者ヲ不充分ト認ムルトキハ之ヲ換ヘシムル

第七條 保證人又ハ副保證人死去若クハ他府縣ニ轉住スルトキハ直ニ之ヲ換ヘ更ニ保證書ヲ書改ムヘシ

第八條 篤志農夫ノ定員ハ當分十名トス

第九條 篤志農夫ニハ一切ノ勞銀ヲ給セス

第十條 執業ハ掛員ノ指揮ニ從フヘシ

第十一條 執業中ハ實地ニ便利ナル服裝ヲ爲スヘシ

第十二條 疾病其他事故アリテ執業スル能ハサルトキ就業時刻前ニ其旨ヲ掛員ニ届出

ツヘシ

第十三條 怠惰ニシテ上達ノ見込ナキモノ不品行ノ者又ハ屢々欠業スル者等ハ退場セシム

第十四條 修業満期ニ至リ熟練ノ成績アルモノニハ證明狀ヲ與フ

第十五條 修業年限内ト雖モ熟練ノ成績アルモノニハ證明狀ヲ與ヘテ退場ヲ許スコト

アルヘシ

第一號書式

篤志農夫願書

私儀農事熱心ニ有之今般御學篤志農夫規則ニ遵ヒ農事修業仕度候間何卒御許可相成度此段奉願候也

宿所

本籍地(戸主ナラサレハ何某男或ハ弟等)

何 某 印

年月日

生年月日

農科大學長何某殿

第七章 農科大學



第二號書式

保證書

宿所

本籍族 (戶主ナラサレハ  
何某男或ハ弟等)

何 某 印

生年月日

右ノ者今般御學ニ於テ篤志農夫御許可相成候ニ付テハ御規則堅ク相守ラセ御掛員ノ御指揮ニ從ヒ年限中屹度修業爲致可申候修業中本人ニ係ル一切ノ事件ハ私共ニ於テ引受可申候右保證致候也

但向後私共宿所移轉或ハ印章相改候節ハ速ニ御届可致候也

宿所

本籍族

保證人 何 某 印

生年月日

宿所

年月日

農科大學長何某殿

本籍族

副保證人 何 某 印

生年月日



昭和七年十一月十七日印刷  
昭和七年十一月二十日發行

上册

(非賣品)

東京帝國大學

東京市小石川區西古川町廿四番地  
印刷者 渡邊一郎

東京市小石川區西古川町廿五番地  
印刷所 中外印刷株式會社



94/100











